

第 3 章 新潟市の農業

1 新潟市農業構想の概要

(1) 新潟市農業構想策定の趣旨

「新潟市農業構想」は、新潟市農業及び農村の振興に関する条例に示された基本理念に基づき、食料、農業及び農村に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とします。

新潟市農業及び農村の振興に関する条例の基本理念

食料	○安心で安全な農産物の安定的な生産 ○地場農産物の地域内の流通及び消費の促進
農業	○農地・農業用水等の農業資源及び多様な担い手の確保とこれらの効率的な組み合わせ ○自然環境と調和した持続的な農業の発展
農村	○良好な景観の形成、洪水の防止、生態系の保全等の多面的機能の維持 ○農産物の生産、生活及び地域活動が共存する場として整備、保全

(2) 構想の期間

令和 5（2023）年度から令和 12（2030）年度まで

(3) 農業・農村の将来像

本市が目指す田園型政令市のイメージである「食と花の都」を継承しつつ、「新潟市総合計画 2030」が示す基本的方向と整合・連携を図りながら、『食と花の都～都市と田園の調和を活かした持続可能な農業の実現～』を目指します。

(4) 構想の目標

基本方針		指 標	現状値 令和 3 (2020) 年度	目標数値 令和 12 (2030) 年度
1 売れる米づくりと園芸産地づくりの推進	(1) 「儲かる農業」に向けた 農業生産基盤の整備・保全 (2) 生産性向上と持続性の両立 に向けたスマート農業技術 の導入促進 (3) 意欲ある担い手等の 確保・育成 (4) 新たな需要に応える 農産物の生産体制の強化 (5) 所得拡大に向けた 販売力の強化	①ほ場整備率	52.3%	65%
		②市管理農業用排水機場の 機能保全計画に基づく 長寿命化対策の実施率	50%	毎年度 100%
		③認定農業者等への農地集積率	70.9%	85%
		④新規就農者数	80人 (令和 3 年)	70人 (令和 12 年)
		⑤環境への負荷を低減させる 取組の面積	31,403a	58,000a
		⑥農業産出額うち米・麦・ 大豆等主要作物の産出額 及び交付金	343.1 億円 (令和 2 年)	拡大 させる
		⑦1 億円園芸産地の販売額の 合計額	102.3 億円 (令和 3 年)	133.8 億円 (令和 12 年)
2 農業を活かしたまちづくり	(1) 地域資源を活用し、 コミュニティの活力を創出 (2) 食と農への理解促進と シビックプライドの醸成 (3) 新潟の農産物と食文化を 全国に発信	⑧登録した農業サポーターの うち活動した人数 (登録者全体に対する割合)	142人 (34%)	210人 (50%)
		⑨多面的機能支払交付金事業 によって広域的に保全管理 される農用地面積の割合	81%	95%
		⑩食と農のわくわくSDGs 学習プログラム実施校数	—	60 校
		⑪学校給食における地場産物 を使用する割合 (金額ベース)	県産 58.4%	県産 61.9%
		⑫新潟市食文化創造都市推進 プロジェクトの採択事業数	83 件	147 件

2 統計から見た新潟市農業の概要

(1) 農業経営

項 目 (巻末に凡例あり)		単位	数値	全県 数値	県内 順位	県内に 占める 割合	備 考
農 業 経 営 体 数		経営体	7,032	43,502	1	16.1%	農林業センサス(2020年) 組織形態別経営体数
農業経営体の雇用者数		人	8,222	37,544	1	21.8%	農林業センサス(2020年) 雇用者の状況
※	農 家 数	戸	9,675	62,556	1	15.4%	農林業センサス(2020年) 総農家数
	販 売 農 家	〃	6,813	41,751	1	16.3%	同上
	自 給 的 農 家	〃	2,862	20,805	1	13.7%	同上
農 家 率		%	2.9%	7.2%	—	—	同上 および 国勢調査(2020年:世帯数) から算出
基幹的農業従事者数		〃	10,379	46,085	1	22.5%	農林業センサス(2020年) 年齢階層別の基幹的農業従事者数
耕 地 面 積	地 面 積	ha	32,700	167,200	1	19.6%	作物統計調査(2023年)
	田	〃	28,200	148,500	1	19.0%	同上
	畑	〃	4,470	18,700	1	23.9%	同上
水 田 率		%	86.2%	88.8%	—	—	作物統計調査(2023年)から算出
耕 地 率		%	45.0%	13.3%	—	—	作物統計調査(2023年)および 全国都道府県市区町村別面積調(2024年 1月値)から算出
経 営 耕 地 面 積		ha	28,463	138,041	1	20.6%	農林業センサス(2020年) 経営耕地の状況
一戸当たり経営耕地面積		〃	2.94	2.20	—	—	経営耕地面積÷農家数
一経営体当たり経営耕地面積		〃	4.04	3.17	—	—	経営耕地面積÷農業経営体数
農 業 産 出 額		億円	534.8	2,323.2	1	23.0%	市町村別農業産出額(2022年)

※ 2020年農業センサスから、専業・兼業の区分がなくなった

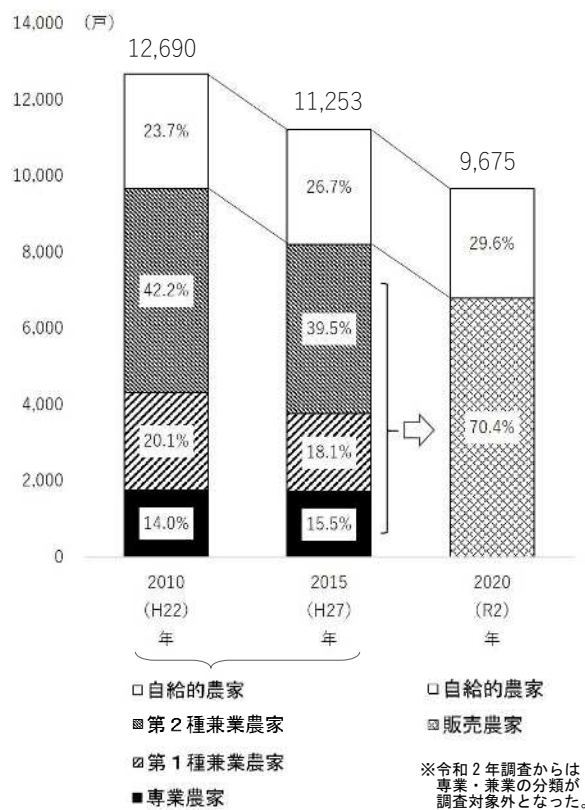
(2) 主な農業生産物 (水稻、大豆)

項 目		単位	数値	全県 数値	県内 順位	県内に 占める 割合	備 考
水 稻	作 付 面 積	ha	24,400	115,800	1	21.1%	作物統計調査(2023年)
	収 穫 量	t	131,100	591,700	1	22.2%	〃
	10アール当たり収量	kg	537	511	1	—	〃
大 豆	作 付 面 積	ha	1,180	4,280	1	27.6%	〃
	収 穫 量	t	2,050	7,100	1	28.9%	〃
	10アール当たり収量	kg	173	166	7	—	〃

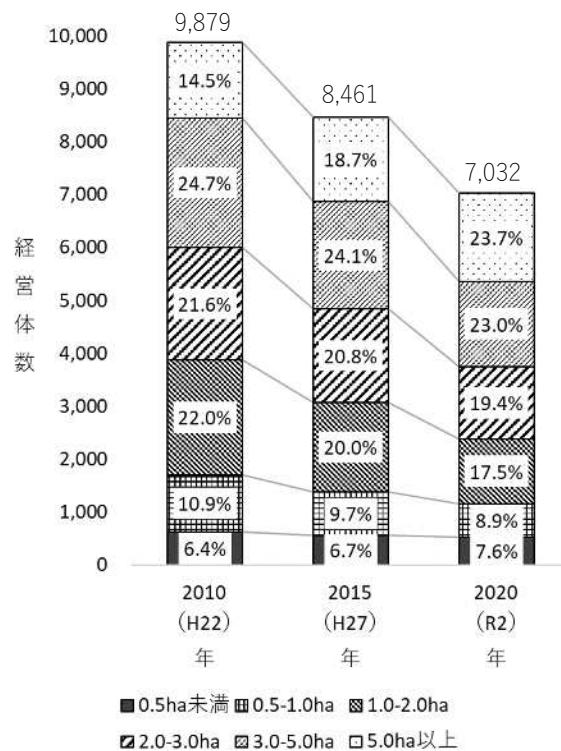
(3) 主な畜産物

項 目	単位	数値	全県 数値	県内 順位	県内に 占める 割合	備 考
乳 用 牛 飼 養 頭 数	頭	758	5,253	2	14.4%	新潟県家畜生産実態調査 (2024 年 2 月 1 日)
肉 用 牛 飼 養 頭 数	頭	561	11,916	8	4.7%	〃
豚 飼 養 頭 数	頭	21,472	156,148	3	13.8%	〃
採 卵 鶏 飼 養 羽 数	羽	78,930	4,995,744	8	1.6%	〃

(4) 農家戸数



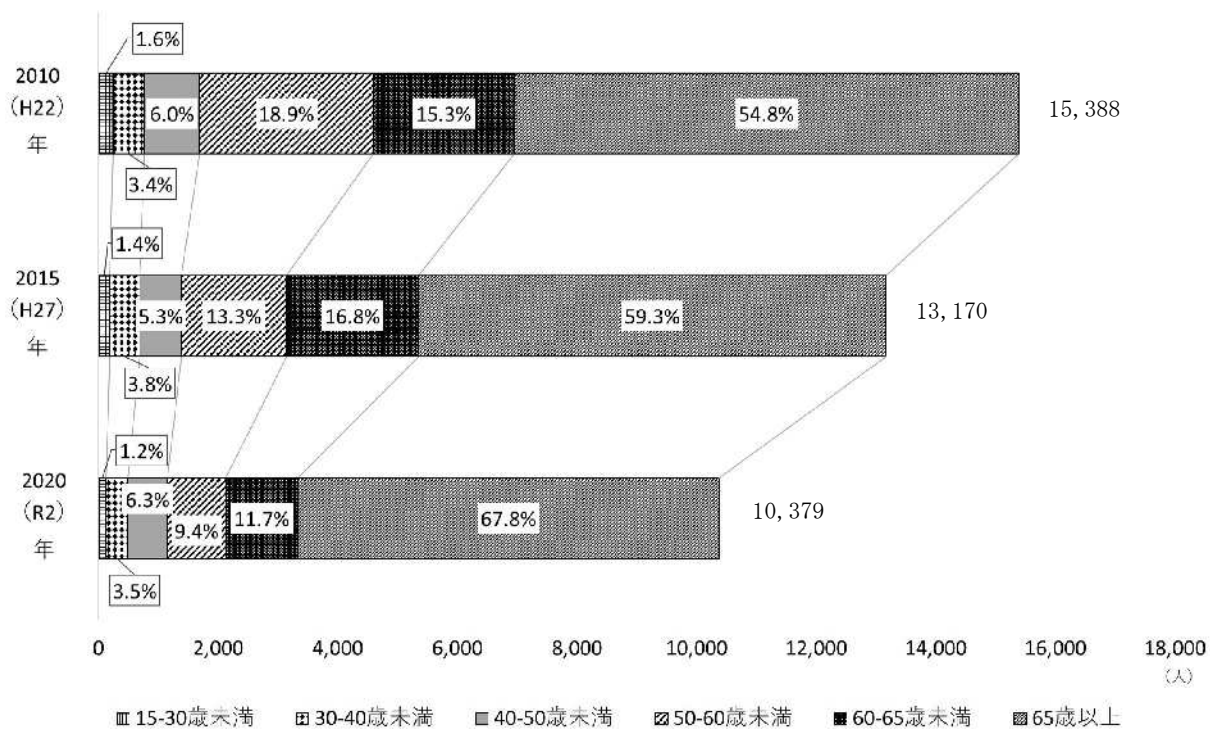
(5) 経営耕地面積規模別経営体数



令和2年の農林業センサスにおける本市の農家戸数は9,675戸で、前回（平成27年）より1,578戸（14.0%）減少した。なお、令和2年調査からは専業・兼業の分類が調査対象ではなくなり、自給的農家が販売農家かの統計となった。

農業経営体数は7,032と前回より1,429（16.9%）減少した。経営耕地面積規模別に見ると、5.0ha以上のクラスが占める率が18.7%から23.7%へと5.0ポイント増加し、経営規模拡大の進展が見られる。

(6) 年齢別基幹的農業従事者数



令和2年の農林業センサスによる本市の基幹的農業従事者数は10,379人で、前回平成27年の農林業センサスより2,791人(21.2%)減少した。65歳以上の高齢者の割合は前回から8.5ポイント増加。生産年齢人口である65歳未満の世代の離農が加速し、高齢化が進行している。

3 農業生産等の概況

(1) 水稻

ア 作柄状況

令和5年産は、下越の作況指数が95となるやや不良の年で、一等米比率は、コシヒカリ0.4%、こしいぶき8.8%であった。

検査成績（単位：30kg換算個・%）

区分 種類	検査総数	等級比率（%）			
		1等	2等	3等	規格外
水稻うるち米	2,257,799	12.5	36.0	50.7	0.8
醸造用玄米	24,734	42.7	54.8	2.4	0.1
もち玄米	119,642	51.1	46.5	2.1	0.4
加工用米※	462,554	26.3	61.1	12.7	0.0
合 計	2,864,729	16.6	40.6	42.1	0.7

（新潟市調査：11月末JA・主食用集荷組合報告値）

※加工用米等水田活用米穀、JA報告値のみ。備蓄米を含む。

イ 生育状況

生育 ステージ	概 況
播種～育苗期	・播種期は4月9日（平年並）。 ・育苗日数は26日間（平年並）。 ・徒長苗は少なく、病害は少発生 ・一部でムレ苗発生
田植～分けつ 期	・田植日の盛期は、5月5日で平年より1日早かった。 ・移植後の高温・多照により活着は並～やや良 ・ワキや表層はく離の多発により生育が停滞。
幼穂形成期～ 出穂期	・出穂期 こしいぶき：7月22日（平年－3日） コシヒカリ：8月3日（平年0日） ・降水量：平年比44% 日照時間：平年比141% ・1回目の穂肥は生育に応じた対応、2回目は確実な施用。葉色の淡いほ場は3回目を施用。
登熟期～収穫 期	・出穂期～登熟期間は早生・中生・晩生について高温で推移した。 ・8月中下旬の高温、多照により登熟期間が短くなった。 ・台風による強風等の影響が少なく、コシヒカリの倒伏は少となった。 ・一部地域で干ばつ被害が見られた。 ・コシヒカリの品質は「不良」、作柄は「やや不良～並」。

（新潟県新潟農業普及指導センター「令和5年度新潟地域の作物」）

ウ 病害虫の発生状況

病害虫名	発生量	発生の特徴・問題点及び対策等
いもち病	葉：少 穂：少	・葉いもちは、新之助等で少発生が確認された程度であった。 ・穂いもちへの感染も、乾燥条件下により極少であった。
紋枯病	少	・ゆきん子舞等の多収性品種で発生が見られたが、乾燥条件下で病斑の進展もほとんど見られなかった。
ごま葉枯病	並	・8月第3半句以降、低地力ほ場で発病が確認された。 ・上位葉の病斑はほとんど無く、穂枯れもほとんど見られなかった。
斑点米カメムシ類	並	・アカスジカスミカメ等のカスミカメ類を主体に発生した。 ・出穂期前後の高温で発生に好適であったものの、畦畔等の草刈りの徹底や防除時期の好天による適期防除が発生を抑制した。

(新潟県新潟農業普及指導センター「令和5年度新潟地域の作物」)

(2) 大豆

ア 作柄状況

推定平均収量は182kg/10aで、前年比+21kg、平年比+16kgであった。2等級以上比率が2.1%で、平年と比べ7.0ポイント減少し、品種別では里のほほえみは2.5%、エンレイは1.6%であった。

イ 生育状況

生育 ステージ	概 況
播種期～ 出芽期	・播種期の一時的な強雨により、大半の地域で作業の遅れが見られ、播種盛期は6月9日で平年比6日遅かった。 ・播種後の適度な降雨により、出芽苗立ちは良好であった。
伸長期～ 開花期	・7月第1、第2半句にも一時的な強雨があったが、下葉の黄化や生育停滞等の湿害の発生は少なかった。 ・培土が1回のみや適期を逸したほ場で雑草が多発した。 ・開花期は7月24日と平年より1日、前年より2日遅く、エンレイの開花期は7月21日、里のほほえみは7月26日であった。
着莢期～ 子実肥大期	・7月第4～第6半句の高温・少雨で、水分不足のほ場が目立ったが、全般的に生育は旺盛であった。 ・7月第5半句～9月第1半句にかけての高温・無降雨により花の枯死・落下が全域で見られ、着莢数が減少した。
成熟期～ 収穫期	・落葉及び成熟が緩慢なほ場も散見され、成熟期のほ場間差、ほ場内のバラツキも大きかった。 ・成熟期は、10月18日で平年より6日遅く、収穫盛期も青立ち株の発生が各地で目立ったことが一因となり10月31日と平年より9日遅かった。 ・一部で、青立ち株の多発により、収穫放棄となったほ場もあった。
収量・品質	・管内全体の作柄は「平年並」。夏季の高温による青立ち株の発生等により収量が低下したほ場もあり、地域間差が大きかった。品質は「平年並」。 ・品種別の推定平均収量は里のほほえみが171kg/10a（前年差+25kg）、エンレイが205kg/10a（前年差+25kg）と、前年より増加した。 ・大粒比率は、55.9%（前年-17.4%）で前年より低く、品種別では里のほほえみ79.1%（前年-11.0%）、エンレイが32.0%（前年-24.8%）であった。

(新潟県新潟農業普及指導センター「令和5年度新潟地域の作物」)

ウ 作柄影響要因

	要 因
プラス要因	・ 播種後の適度な降雨で苗立は良好 ・ 7 月第 4 半旬以降の高温・多照で、生育量を確保 ・ 病害虫防除の適期実施
マイナス要因	・ 培土 1 回に留まったほ場や培土適期を逸したほ場及び連作ほ場で雑草多発 ・ 開花期の土壌の過乾燥で着莢数減少 ・ 粒肥大期の高温、土壌の過乾燥で小粒化 ・ 雑草、青立株等による汚粒発生及び収穫遅れ ・ 収穫遅れ等によるしわ粒の発生 ・ 粒肥大期の高温等による皮切れ粒の発生

(新潟県新潟農業普及指導センター「令和 5 年度新潟地域の作物」)

(3) 野菜

本市の野菜生産は、稲作に次ぐ重要な部門を占めており、恵まれた地理的条件を生かし、市内をはじめ県内外への野菜供給基地として主産地を形成している。

畑作耕地面積は、4,470ha（農林水産省農林水産関係市町村別データ令和 5 年値）で、県内の約 24% を占めている。

海岸線に沿った砂丘畑では、すいか・だいこん・ねぎを中心にかぶ・にんじん・メロン・キャベツ等が栽培され、また、内陸部や水田転作の畑では、施設を利用したトマト・きゅうり・いちご・メロン・葉菜類等の集約栽培が行われ、露地ではえだまめ・そらまめ・なす・ねぎ・ブロッコリー・さといも・ながいも・その他軟弱葉菜類等多種多様な品目が栽培されている。

多くの園芸品目の中から、「にいがた十全なす」、「くろさき茶豆」、「女池菜」、「新潟すいか」、食用菊「かきのもと」、いちご「越後姫」、やきなす、トマト（大玉系）及びながいも、やわ肌ねぎ、さつまいも「いもジェンヌ」を新潟市食と花の銘産品に指定しており、生産・販売の拡大とブランド化に向けた支援を行っている。

(4) 切花・球根・花木類

切花類は、全市的に作付けされているが、特に北区豊栄地区、東区・江南区の新潟地区、秋葉区新津地区、南区白根地区、西区黒埼地区にまとまった産地がある。栽培品目では全国トップクラスの作付面積、出荷量を誇っているチューリップ、アイリスをはじめとしてユリ、輪菊、小菊、スプレー菊、トルコギキョウ、スターチス、ストック等多種類の花き生産が行われている。

特にチューリップ切花は、ハウス栽培により 12 月下旬のクリスマス需要から 3 月の彼岸需要を中心に生産され、栽培品種が多く、一重咲きからユリ咲き、八重咲きなどバラエティーに富んだ出荷がある。しかしながら、近年の価格低迷の影響を受けて産地全体がやや減少傾向となっている。

球根はチューリップの球根生産が一番多く、江南区横越地区、新潟地区、黒埼地区、白根地区、新津地区が産地である。次いでアイリス球根が新潟地区、黒埼地区、西蒲区巻・西川地区で栽培されている。チューリップは、全国市町村の中でも有数の出荷量を誇っている。その他ゆり、クロッカスなどの生産があるが、高齢化により農家戸数は減少傾向にある。

花木類は、古くから秋葉区新津・小須戸地区、白根地区を主要産地として、アザレア、シャクナゲ、ボケ、さつきが生産され、これら産地で開発されたオリジナル品種も多く、産地の活性化に努めている。

このような多種多様な品目のうち、新潟市食と花の銘産品として、新テッポウユリ「ホホワイト阿賀」、チューリップ（切花・球根）、アザレア、ボケ及びクリスマスローズを指定しており、生産・販売の拡大とブランド化に向けた支援を行っている。

(5) 果樹

ア 産地概況

果樹栽培においては、環境保全型農業の取り組みや光糖度センサーの導入などにより、高品質果実の出荷に努めている。

しかし、生産者の高齢化、担い手不足等の問題で廃園や産地の縮小が懸念されている。そのため、今後は担い手育成・支援、産地規模の維持が課題となっていく。

本市では、多様な果樹の生産がなされているが、そのうち、西洋なし「ル レクチェ」、日本なし「新高」、「新興」、かき「越王おけさ柿」、うめ「藤五郎梅」、ぶどう「巨峰」及びいちじく「越の雫」を新潟市食と花の銘産品に指定している。

産地の状況

	栽培面積 (ha)	主な栽培地区	主な品種
日本なし	196	北区豊栄地区 南区白根、月潟地区 江南区横越、亀田、両川地区 西蒲区中之口地区	新興、新高、幸水、豊水、二十世紀あきづき
西洋なし	57	南区白根、月潟地区 江南区亀田地区	ル レクチェ
かき	113	北区豊栄地区 秋葉区新津地区 西蒲区巻地区	平核無、刀根早生（越王おけさ柿）
ぶどう	89	南区白根、月潟地区 西蒲区中之口地区	巨峰、デラウェア、ロザリオビアンコ、甲斐路、シャインマスカット
もも	83	南区白根、月潟地区 西蒲区中之口地区	白鳳（日の出）、八幡白鳳、白根白桃、川中島白桃、なつおとめ、なつっこあかつき
うめ	5	江南区亀田地区	藤五郎梅、越の梅
いちじく	…	北区豊栄地区 南区白根地区 西区内野地区 西蒲区巻、潟東地区	柵井ドーフィン

栽培面積：2020年農林業センサス

※いちじくについては、農林業センサスの公表値なし

イ 生産動向

日本なし	・高齡化、気象災害の影響等により栽培面積、生産者数ともに減少傾向である。 ・伐採される園も多いが、担い手農家への作業委託により維持されている園地もある。
西洋なし	・栽培面積、栽培者数はともにほぼ横ばいである。 ・褐色斑点病は近年少発生であったが、令和 5 年は棚上新梢葉、果実とも発生がやや多かった。近年は 9 月以降からごま色斑点病の発病葉が急に増えていたが、令和 5 年は高温干ばつも影響して発病は少なかった。
かき	・生産者のリタイヤが始まり、新たな担い手の確保が急務 ・所得率の高い等階級の果実生産に向けて、早期摘らいを実践している。
ぶどう	・生産者と面積は減少しており、今後も生産量の減少が予想される。 ・シャインマスカットの出荷量は年々増加、販売額を伸ばしている。
もも	・栽培面積や生産量は減少傾向にある。 ・せん孔細菌病対策では、防風網の設置や秋季防除の徹底等により近年の発生は平年並みに抑えられている。
うめ	・高齡化による離農や宅地化等により栽培面積は減少している。 ・郊外の園地では風当たりが強く、病害の発生により生産性低下を招いている。
いちじく	・栽培者、栽培面積とも変動はなかった。

(令和 5 年度新潟地域の農業概況)

(6) 葉たばこ

西区赤塚地区、西蒲区巻地区の砂丘畑で栽培され、耕作面積は県内の約半分を占めていたが、平成 24 年度に日本たばこ産業株式会社より廃作の募集が行われた結果、市内の大半のたばこ農家が廃作に応じ、栽培面積、生産者数ともに 23 年比 80%以上減少した。今後も葉たばこから他作物への円滑な転換を推進するための支援が必要となっている。

令和 5 年産葉たばこ生産・販売実績

耕作 人員 (人)	耕 作 面 積 (ha)	販 売 重 量 (t)	販 売 代 金 (円)	1kg 当たり 代 金 (円)	10a 当たり		1 人当たり	
					重 量 (kg)	代 金 (円)	面 積 (a)	代 金 (円)
15	26.2	64.9	107,233,002	1,652	248	409,662	174.5	7,148,867

(農林政策課調べ・北越たばこ耕作組合提供)

(7) 畜産

畜産経営は、畜種を問わず全体的に高齡化が進展しているうえ、臭いや排せつ物処理に起因する環境問題等により飼養戸数は減少傾向にある。配合飼料価格、輸入粗飼料価格が高水準で推移していることから、WCS 用稲や飼料用米等の生産・利用の拡大による生産費の低減が課題となっている。

畜種別では、酪農経営については、江南区・秋葉区・西蒲区等 18 戸で 758 頭（雌牛計）が飼養されている。輸入粗飼料価格が高水準で推移しており、生産費の増加が経営を圧迫している。

肉用牛経営では、北区等の大規模経営体 8 戸で 561 頭（飼養頭数計）が飼養されている。

養豚経営は、南区、西蒲区を中心に 11 戸 21,472 頭（飼養頭数計）が飼養されている。飼料価格の高騰等による生産費の増加や枝肉卸売価格の低下から収益性が低下するなか、食品残さの飼料化によ

るエコフィードを利用した飼料費低減の取組みも見受けられる。

採卵鶏飼育経営では、7 戸 78,930 羽（種鳥、雛を除く）であり、北区や秋葉区、西蒲区を中心に飼養されている。

（農林政策課調べ（令和 6 年 2 月 1 日現在））

（8）環境保全型農業実践者の状況

ア にいがたエコファーマー

「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律」（みどりの食料システム法）では、県が、環境負荷低減に取り組む農業者が作成する「環境負荷低減事業活動実施計画」を認定し、計画の認定を受けて環境負荷低減に取り組む農業者を「にいがたエコファーマー」（愛称）と呼んでいる。認定された計画に基づく取組に対しては、税制・金融措置での支援や、各種予算事業でメリット措置が受けられる。市内において、令和 5 年度は 8 件の新規認定があり、令和 5 年度末で 1,179 人が認定されている。

エコファーマー認定状況

（件）

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度 にいがた エコファーマー
水稻	129	115	74	117	24	6
大豆	0	1	2	0	0	1
大麦	－	－	1	0	0	0
野菜	41	81	9	3	3	0
果樹	39	86	9	3	0	1
花き	0	6	2	1	0	0
合計	209	289	97	124	27	8

※H30 年度から R4 年度はエコファーマーの数値を記載。認定件数は、新規認定と更新認定の合計。

1 人で複数品目の認定を受けることができるため、認定品目数を表記している。

イ 新潟県特別栽培農産物

新潟県内で、農薬の使用回数及び化学肥料の使用量を慣行栽培の概ね 5 割以下に削減して栽培された農産物を、県が特別栽培農産物として認証する制度で、市内では令和 5 年度に 81 件、530.73ha が認証されている。

新潟県特別栽培農産物認証状況

	R 元年度		R2 年度		R3 年度		R4 年度		R5 年度	
	（件）	（ha）	（件）	（ha）	（件）	（ha）	（件）	（ha）	（件）	（ha）
米	65	330.71	75	356.63	63	316.85	63	321.55	72	526.40
大豆	－	－	1	0.89	3	0.62	1	0.51	1	0.51
野菜	11	5.89	11	5.85	8	4.27	4	2.31	7	3.30
果樹	1	0.07	4	22.2	2	0.74	2	0.67	1	0.52
合計	77	336.67	91	385.57	76	322.48	70	325.04	81	530.73

4 農林関係主要事業

(1) 農業振興地域整備計画

ア 農業振興地域の概要

「農業振興地域の整備に関する法律」が昭和 44 年 7 月に施行された後、県知事より市町村単位で農業振興地域の指定を受けて農業振興地域整備計画を策定。平成 17 年 3 月の市町村合併以降も、旧市町村単位の農業振興地域整備計画による管理を継続。

令和 2 年度より 3 か年事業で計画の統合再編を実施し、令和 5 年度より行政区単位の 8 計画による管理へ移行。

地域名	地域指定年月日	計画策定年月日
北区	S46. 2. 9	S46. 10. 4
東区	S46. 10. 4	S48. 12. 7
中央区	S46. 10. 4	S48. 12. 7
江南区	S46. 2. 9	S46. 10. 4
秋葉区	S46. 2. 9	S48. 2. 23
南区	S46. 10. 4	S47. 9. 18
西区	S46. 10. 4	S48. 9. 21
西蒲区	S46. 2. 9	S47. 3. 22

※地域指定年月日及び計画策定年月日は、各地域を構成する旧市町村のものうち最も早いものとしている。

イ 農用地利用計画の状況

農用地利用計画面積（令和 5 年 12 月 31 日現在）

（単位：ha）

地域名	農業振興地域		農用地区域						
			農地			採草放牧地	農業用施設用地	山林原野	その他
			田	畑	樹園地				
北区	8,715.7	5,253.9	4,173.1	525.0	22.1	0.0	27.8	50.3	455.6
東区	1,078.6	370.6	281.4	58.5	0.2	0.0	0.2	0.0	30.3
中央区	630.0	146.1	125.0	5.6	0.2	0.0	0.3	0.7	14.3
江南区	6,533.0	3,727.6	3,087.9	224.8	89.0	0.0	14.6	0.9	310.4
秋葉区	7,954.0	3,909.0	3,330.6	239.5	24.8	0.0	13.3	1.0	299.8
南区	9,544.0	6,488.6	5,287.6	284.6	297.4	0.0	18.1	0.0	600.9
西区	6,694.3	4,322.1	3,028.3	843.8	1.7	0.0	9.7	105.1	333.5
西蒲区	16,664.9	9,639.3	7,994.8	478.4	202.7	5.3	28.6	13.5	916.0
合 計	57,814.5	33,857.2	27,308.7	2,660.2	638.1	5.3	112.6	171.5	2,960.8

※「その他」は、どの地目にも該当しないもの（雑種地、耕作道、用水路などの土地改良施設など）

(2) 農業経営基盤強化促進対策事業

ア 認定農業者の育成

認定農業者制度の創設以来、確保・育成に取り組んできた。

各区における認定農業者の年度別推移（令和5年度末現在）

区 分	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	前年度比	
						増 減	割 合
合 計	3,671	3,462	3,389	3,365	3,278	▲87	97.4%
北 区	449	422	422	414	399	▲15	96.4%
東 区	65	62	63	61	58	▲3	95.1%
中 央 区	35	35	35	34	33	▲1	97.1%
江 南 区	347	325	325	293	280	▲13	95.6%
秋 葉 区	486	458	428	434	424	▲10	97.7%
南 区	639	614	608	612	613	1	100.2%
西 区	636	616	614	616	587	▲29	95.3%
西 蒲 区	1,014	930	894	901	884	▲17	98.1%

イ 農地所有適格法人の育成

農業経営の安定と発展を図るため、経営体の法人化に取り組んできた。

新潟市に所在地を置く法人のみを対象として集計した。

農業法人の現況（令和5年度末現在）

区 分	合 計		農事組合法人		株式会社		有限会社		その他	
		うち 農地所有 適格法人		うち 農地所有 適格法人		うち 農地所有 適格法人		うち 農地所有 適格法人		うち 農地所有 適格法人
合 計	210	171	50	44	91	75	63	50	6	2
北 区	15	11	6	5	6	5	2	1	1	0
東 区	5	4	0	0	3	3	1	1	1	0
中央区	5	2	0	0	4	1	0	0	1	1
江南区	29	21	15	12	7	5	7	4	0	0
秋葉区	21	16	5	5	10	8	5	3	1	0
南 区	47	39	8	7	14	10	25	22	0	0
西 区	27	24	5	5	18	17	4	2	0	0
西蒲区	61	54	11	10	29	26	19	17	2	1

【参考】農業法人の現況（令和４年度末現在）

区 分	合 計		農事組合法人		株式会社		有限会社		その他	
		うち 農地所有 適格法人		うち 農地所有 適格法人		うち 農地所有 適格法人		うち 農地所有 適格法人		うち 農地所有 適格法人
合 計	209	167	51	43	90	72	63	50	5	2
北 区	15	11	6	5	6	5	2	1	1	0
東 区	5	4	0	0	3	3	1	1	1	0
中央区	5	3	0	0	4	2	0	0	1	1
江南区	28	20	15	12	6	4	7	4	0	0
秋葉区	19	12	5	4	9	5	5	3	0	0
南 区	48	40	8	7	14	10	26	23	0	0
西 区	25	22	5	5	17	15	3	2	0	0
西蒲区	64	55	12	10	31	28	19	16	2	1

ウ 女性農業者の育成・参画

家族経営内で後継者・女性農業者の地位や役割を明確化するため、個人の役割分担、労働時間などの就業条件、収益の分配、経営の継承などを家族で話し合い、ルール化する「家族経営協定」の推進を図り、認定農業者の夫婦・親子による連名申請への誘導を行った。

家族経営協定累計締結件数（各年度末現在）

	北 区	東 区	中央区	江南区	秋葉区	南 区	西 区	西蒲区	合 計
R3 年度	66	13	6	45	53	81	57	84	405
R4 年度	70	12	6	43	53	83	55	85	407
R5 年度	65	11	5	41	45	91	55	87	400

エ 新規就農者の確保

地域農業を継続的に維持・発展させるためには、新規就農者、新規参入者の確保・育成が喫緊の課題となっている。法人等へ就農を希望する者が、営農技術や知識の習得を円滑に行うため、雇用主に対し研修費の一部を助成する「新規就業者雇用研修支援事業」を実施した。

新規就農者の状況

(R5. 1. 1～R5. 12. 31)

区 分	新規就農者数						
	性 別			出 身		形 態	
	計	男	女	農家出身	非農家出身	就 農	法人等就業
合 計	95	73	22	48	47	54	41
北 区	14	10	4	7	7	8	6
東 区	3	2	1	0	3	0	3
中 央 区	0	0	0	0	0	0	0
江 南 区	10	10	0	5	5	7	3
秋 葉 区	4	2	2	3	1	3	1
南 区	24	18	6	11	13	11	13
西 区	18	15	3	15	3	16	2
西 蒲 区	22	16	6	7	15	9	13

にいがた agribase 事業 新規就業者雇用研修支援の活用状況

	新規就業者人数	各区内訳（雇用人数）
R2 年度	11 名	江南区 2、秋葉区 1、南区 3、西区 2、西蒲区 3
R3 年度	17 名	秋葉区 2、南区 8、西区 4、西蒲区 3
R4 年度	10 名	江南区 1、南区 3、西区 5、西蒲区 1
R5 年度	11 名	江南区 1、秋葉区 2、南区 6、西区 1、西蒲区 1

※R4 年度以前は「新規就農者確保・育成促進事業」の活用状況を記載している。

(3) 担い手育成・確保緊急対策事業

分散した農地の連担化を図るため、人・農地プランによる地域での話し合いを進めるとともに、平成 26 年度設置された農地中間管理事業を活用するなど認定農業者等への農地集積を進めた。

認定農業者等への農地集積状況

	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
農用地利用集積面積 (ha)	22,667.5	23,285.9	23,546.1	23,610.7
集積率 (%) ※	68.9	70.9	72.0	72.2
自己所有 (ha)	10,564.8	10,539.2	10,481.0	10,221.6
借入地 (ha)	11,532.6	12,117.6	12,452.7	12,799.0
農作業受託 (ha)	570.1	629.1	612.3	590.0

※集積率の分母は「政府統計 作物統計調査」耕地面積を用いる。R5 年度 耕地面積変更。

(4) 制度資金

ア 農業近代化資金

農業近代化資金融通法に基づき農業者等の資本装備の高度化を図り、農業近代化に資することを目的に融資するものである。市は借入当初5年間について一部利子補給を行い、金利負担の軽減を図っている。

また、認定農業者については金利負担を0.50%に設定し利子補給を行っている。

令和5年度は、年度当初は融資機関の貸付金利が市の定める借入者の金利負担率を下回る率で推移し、交付件数は0件であった。

(単位：千円)

	R3 年度		R4 年度		R5 年度	
	件数	交付額	件数	交付額	件数	交付額
農業近代化資金（交付実績）	0	0	0	0	0	0

イ 農業経営基盤強化資金（スーパーL資金）

認定農業者が、農業改善計画に示した具体的な経営改善を実現するため、必要となる長期資金として平成6年に創設された。当該資金借入者に対し、利子助成を行うことにより認定農業者の金利負担の軽減と経営の安定を図る。市の利子補給は県利子補給の3分の1の法定利子補給に加え、当初5年間に限り、国が示す末端負担金利の3分の1を上乗せ利子補給する。

なお、平成24年度以降は、当初5年間に限り、利子助成は全額国費となっており、人・農地プランに位置づけられた認定農業者を実質無利子化の対象としている。

令和5年度、当該資金に対する利子補給は、26件で279千円である。

(単位：千円)

	R3 年度		R4 年度		R5 年度	
	件数	交付額	件数	交付額	件数	交付額
農業経営基盤強化資金（交付実績）	37	496	32	379	26	279

ウ 新規参入者経営安定資金

新規参入者は農家子弟と違い、農地や農業機械等の資本を持たない。また営農経験が浅いこと等から、経営開始後、所得確保が安定するまで概ね5年を要する。このため、経営開始後の早期経営安定を図るため利子補給を行う。令和5年度、当該資金に対する利子補給は、10件で199千円である。

(単位：千円)

	R3 年度		R4 年度		R5 年度	
	件数	交付額	件数	交付額	件数	交付額
新規参入者経営安定資金（交付実績）	8	195	9	185	10	199

エ アグリ特区保証制度資金

国家戦略特区の規制緩和を活用し、農業に関する事業資金についても信用保証協会の保証を受けられるようにすることで、新潟市内において商工業とともに農業を営む中小企業者等の事業活動に必要な資金の調達を円滑にし、市内における農商工連携の推進及び事業者の育成を目的として平成 27 年 1 月より取り扱いを開始した制度融資である。

令和 5 年度は、2 件の融資先に対して 8,000 千円の融資が実行された。

(単位：千円)

	R3 年度		R4 年度		R5 年度	
	件数	融資額	件数	融資額	件数	融資額
アグリ特区保証制度資金	1	8,000	3	14,000	2	8,000

(5) 農地中間管理事業

国は、担い手への農地集積・集約化を図るため、平成 26 年度から農地中間管理事業を創設し、農地集積に協力した場合、機構集積協力金を交付している。新潟県は、公益社団法人新潟県農林公社に農地中間管理機構を設立し、本市は機構との委託契約により、農用地利用集積計画案の作成業務などを実施した。

農地中間管理事業（農地バンク）の活用実績

(単位：筆、ha)

区分\年度		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	合計
計	筆数	3, 979	7, 537	12, 229	7, 390	7, 031	5, 371	6, 547	7, 915	6, 561	8, 245	72, 805
	面積	341	732	1, 036	605	668	485	568	776	632	774	6, 617
北	筆数	793	1, 415	974	982	760	631	420	426	268	174	6, 843
	面積	70	139	78	72	62	47	40	43	32	20	603
東・中央 江南	筆数	889	2, 176	1, 982	837	1, 221	675	745	1, 353	835	1, 008	11, 721
	面積	75	193	166	65	104	63	61	141	76	89	1, 033
秋葉	筆数	208	610	1, 476	381	444	1, 169	1, 101	1, 231	929	848	8, 397
	面積	20	57	116	30	38	100	94	112	92	92	751
南	筆数	174	686	1, 802	1, 141	556	800	507	622	507	898	7, 693
	面積	28	126	180	120	68	89	81	111	92	154	1, 049
西	筆数	595	2, 033	2, 356	242	995	558	725	1, 229	2, 017	727	11, 477
	面積	48	161	177	20	69	41	63	94	165	55	893
西蒲	筆数	1, 320	617	3, 639	3, 807	3, 055	1, 538	3, 049	3, 054	2, 005	4, 590	26, 674
	面積	100	56	319	298	327	145	229	275	175	364	2, 288

※途中解約される契約案件があるため、各年度の実績と合計は一致しない。

※R5 の数値を修正してある。

地域集積協力金交付事業

(単位：地区、ha)

区分\年度		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	合計
計	地区	4	13	18	9	8	3	4	3	2	1	65
	面積	168	469	765	320	379	51	94	97	51	89	2,483
北	地区	1	2	1	1	1	1	-	-	-	-	7
	面積	24	88	35	35	27	16	-	-	-	-	225
東・中央 江南	地区	1	4	4	2	1	1	-	2	1	-	16
	面積	47	152	121	44	68	28	-	52	5	-	517
秋葉	地区	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-	4
	面積	-	21	53	0	3	7	10	-	-	-	94
南	地区	-	3	3	2	2	-	-	-	-	-	10
	面積	-	97	122	53	35	-	-	-	-	-	307
西	地区	1	3	4	-	2	-	1	1	1	-	13
	面積	28	111	175	0	36	-	27	45	46	-	468
西蒲	地区	1	-	5	4	2	-	2	-	-	1	15
	面積	69	-	259	188	210	-	57	-	-	89	872

※地区数は、当該年度に新たに申請が行われた地区数を計上。

※再申請地区においては、面積のみ計上。

(6) 元気な農業応援事業

米生産の体制整備をするため、規模拡大や作業の効率化・低コスト化に必要な機械・施設整備の支援を行った。需要に応じた米生産に向けて、加工用米・米粉用米の地域内流通と新市場開拓用米の取組拡大を支援した。

また、米中心の生産体制からの高収益な園芸作物へ転換を図るため、園芸生産の導入・定着に向けた支援や園芸産地の強化に係る新たな取組に対する支援のほか、大規模な園芸産地の形成に向けた取組を支援した。

エネルギー価格高騰の影響を受ける農業者の省エネルギー化の取組を促進するため、農業者への遠赤外線乾燥機の導入支援及び施設園芸農業者への高効率暖房機の導入及び暖房機のメンテナンス支援を行った。

ア 事業の実績（概要）

区分		数量	単位	補助金額 (千円)
米対策支援				291,573
	ハード事業			166,076
	収益力向上支援	205	件	166,076
	ソフト事業			125,497
	地域内流通促進	1,810	ha	120,474
	新市場開拓用米取組拡大支援	42	ha	5,023
園芸等対策支援				242,883
	穀物類ソフト事業			121,982
	麦・大豆いいものづくり支援	1,141	ha	116,179
	麦・大豆地域内流通実践支援	116	ha	5,803
	園芸作物対策（ハード事業）	140	件	65,577
	収益力向上支援	140	件	65,577
	鳥獣被害防止対策支援	0	件	0
	園芸作物対策（ソフト事業）			55,324
	果樹産地生産振興支援	2	件	2,879
	省エネルギー対策支援	160	件	21,010
	施設承継支援	0	件	0
	地域特産作物助成	300	ha	30,009
	園芸産地強化支援	7	件	1,426
新たな産地づくり支援				34,494
	園芸作物対策（ハード事業）			34,494
	機械・施設支援	3	件	34,494
県連携支援				159,129
	農林水産業総合振興事業	20	件	116,366
	経営体発展総合支援事業	5	件	42,763
合計				728,079

(7) 需要に応じた米生産の取り組み状況

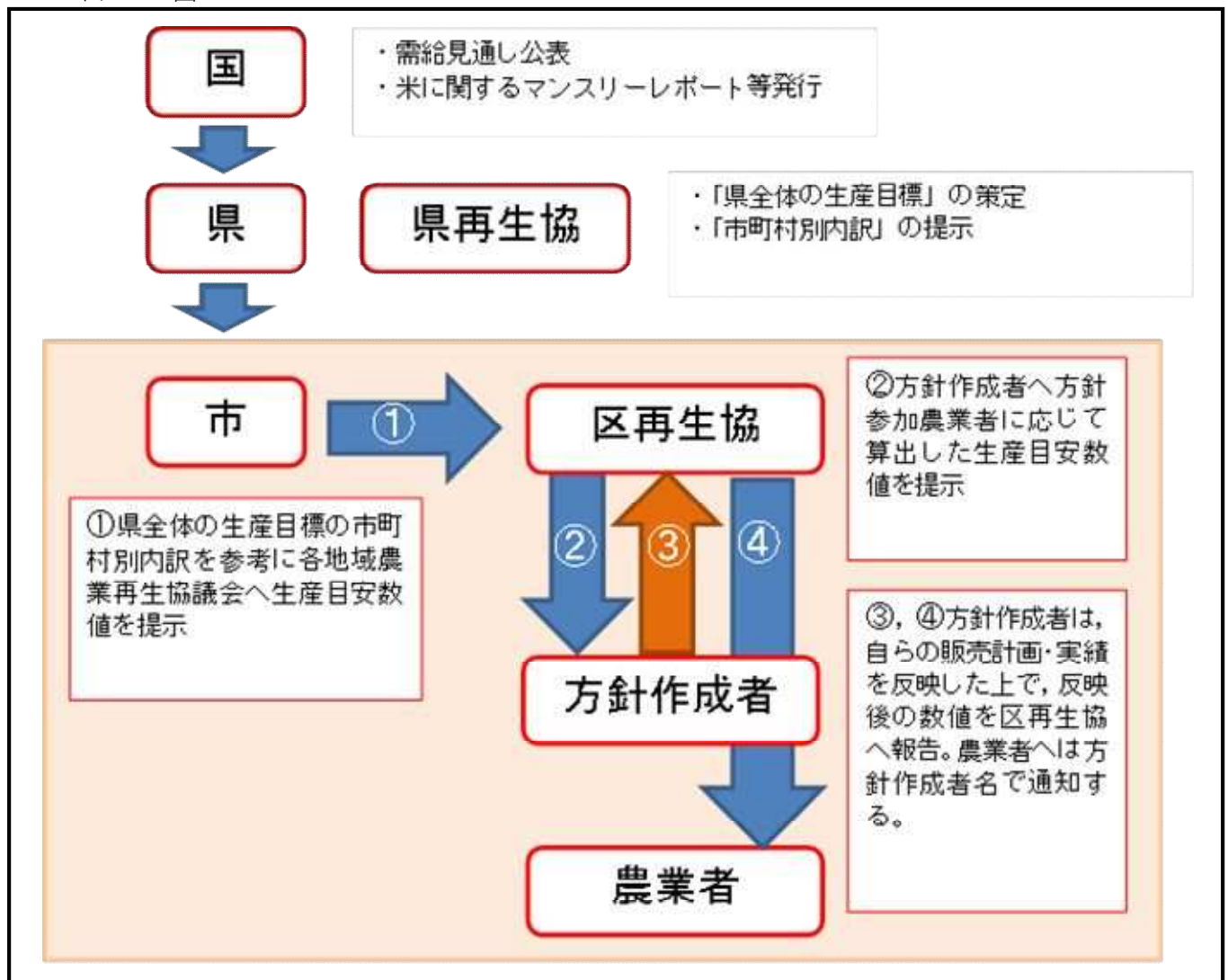
ア 令和5年度米の需給調整取組状況

平成30年度からの新たな米政策が始まり、集荷業者や農業者が自らの判断において生産を行っている。

農業者自らが需要に応じた米生産の取組を実施するにあたり、本市及び市内に6つある地域農業再生協議会では、全国的な人口減少や米の消費量が減少傾向にあることから、引き続き需要に応じた生産を実施し農業者の所得確保に向けた取り組みが必要であると判断し、全農業者に方針作成者名で生産目安数値を通知している。

生産目安数値は、県から示された市町村別目安を参考に、各区地域再生協議会に提示を行う。各区地域農業再生協議会は、方針作成者毎に方針参加する農業者に応じて生産目安数値を提示、方針作成者は自らの販売計画・実績を反映した上で、方針参加する農業者に方針作成者名で通知を行う仕組みとなっている。

<イメージ図>



イ 令和 5 年産作付面積

(単位 : ha)

区分	作物名		協議会名						計
			北区	亀田郷	秋葉区	南区	西区	西蒲区	
主食用米			3, 146. 7	2, 983. 9	2, 299. 2	3, 872. 3	2, 477. 5	5, 696. 9	20, 476. 5
戦略作物	麦(基幹作)		4. 9	0. 9	18. 2	1. 1	1. 4	0. 1	26. 6
	大豆(基幹作)		22. 0	59. 8	86. 5	399. 8	0. 0	602. 9	1, 171. 0
	飼料作物		8. 2	10. 1	14. 2	0. 0	0. 0	9. 6	42. 1
	子実用とうもろこし (飼料用以外)		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
	新規需要米	米粉用米	32. 8	104. 8	0. 4	176. 8	68. 8	24. 4	408. 0
		飼料用米	26. 0	47. 9	207. 2	73. 9	3. 2	107. 2	465. 4
		WCS 用稲	15. 1	0. 0	8. 7	1. 9	3. 2	4. 1	33. 0
		新市場開拓用米	23. 8	73. 8	38. 7	13. 8	37. 2	74. 3	261. 6
		酒造等	0. 0	3. 0	2. 1	3. 3	0. 6	1. 0	10. 0
	加工用米		518. 8	241. 3	426. 0	306. 4	179. 5	655. 3	2, 327. 3
備蓄米			57. 5	203. 7	134. 9	60. 6	87. 6	374. 2	918. 5
その他作物	そば(基幹)		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	3. 8	3. 8
	なたね		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
	高収益(野菜)		22. 3	88. 0	45. 6	86. 8	92. 3	23. 7	358. 7
	高収益(果樹)		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 7	0. 7
	高収益(花き・球根類・花木)		2. 2	10. 5	0. 0	0. 0	0. 1	0. 0	12. 8
	高収益(その他)		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
	地力増進作物		0. 0	0. 0	0. 6	0. 0	0. 0	0. 0	0. 6
	その他		0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
計			3, 880. 3	3, 827. 7	3, 282. 3	4, 996. 7	2, 951. 4	7, 578. 2	26, 516. 6

※小数点第 2 位を四捨五入

(令和 6 年産転換作物生産動向の前年産実績)

(8) 環境保全型農業直接支払交付金事業

国の制度に基づき、化学肥料・化学合成農薬の5割低減の取組とあわせて、地球温暖化防止を目的とした農地土壌への炭素貯留に効果の高い営農活動や生物多様性保全に効果の高い営農活動を支援している。令和5年度より、地域特認として「5割低減の取組と総合的病害虫・雑草管理（IPM）、畦畔除草及び秋耕の実施を組み合わせた取組」が追加された。

令和5年度事業の実績（概要）

取組種目	組織数	農家数	取組面積（a）	補助金額（円）
1 全国共通取組				4,676,395
5割減・減栽培＋堆肥の施用（基本単価）	10	65	28,368	3,120,480
5割減・減栽培＋堆肥の施用（特例単価）	2	16	2,809	154,495
長期中干	1	1	231	4,620
有機農業	7	23	4,656	1,396,800
2 地域特認取組				327,550
5割減・減栽培＋冬期湛水管理 （有機質肥料施用、畦補強等実施）	1	4	1,489	297,800
5割減・減栽培＋冬期湛水管理 （有機質肥料未施用、畦補強等実施）	1	1	238	29,750
合計	22	110	37,791	5,003,945

※ 組織数、農家数、取組面積の合計は、各取組みの延べ数。補助金額は、市の一般財源分のみ計上

(9) 試験研究事業

農業の成長産業化を目指し、農業者に近い研究機関として、品種・作型・栽培法など栽培技術上の課題解決に向けた実証試験を実施したほか、(公社)東京生薬協会との連携協定に基づき、薬用植物の試験栽培を実施した。

また、本市農産物のブランド化や企業ニーズに対応した農作物の育成、加工品の開発を図るため、地元大学などと共同研究を進めた。

ア 栽培実証試験

区分	No.	課題名	研究期間
野菜	1	キュウリ半促成作型における有望品種の選定	継続 2 年目
	2	キュウリ抑制作型における有望品種の選定	新 規
	3	ハウストマト培地耕養液栽培における循環方式の実用性の検討	新 規
	4	露地 6～7 月どりネギを可能にする作型と品種の検討 (播種時期と適した品種の検討)	継続 2 年目
	5	露地 6～7 月どりネギを可能にする作型と品種の検討 (播種時期と定植方法の検討)	継続 2 年目
	6	エダマメ直播き栽培の早期化、安定化技術の検討	継続 2 年目
花卉	1	アスターのボックス栽培試験(連用の検討)	継続 5 年目
	2	マトリカリア周年採花の検討	新 規
	3	秋冬期における 1, 2 年生草花の展示栽培	継続 4 年目
	4	水稻育苗ハウス有効利用に向けた検討・ヒマワリ無加温ボックス連続栽培	新 規
	5	チューリップ切花における真空パック包装の検討	新 規
果樹	1	ナシ主要品種における溶液受粉技術の実証	継続 3 年目
	2	西洋ナシ‘ル レクチエ’における効果的で省力的な受粉技術の検討	新 規
	3	新潟県産果実のブランド力強化と産地活性化のための新品種・新技術開発	継続 3 年目
	4	多目的防災網を利用したモモ無袋栽培の検討	新 規
	5	モモ‘川中島白桃’前後に出荷できる有望中晩生品種の選定	継続 4 年目
	6	リンゴ高密度植新わい化栽培における適性品種の検討	継続 4 年目
	7	ブドウ無加温ハウス栽培における有望品種の選定	新 規
	8	早期成園化、省力化が可能なカキ‘平核無’の V 字ジョイント栽培の検討	継続 4 年目
	9	ナシ有望品種による省力・早期成園化技術(ジョイント栽培)の検証	継続 10 年目
	10	加温ハウスを利用したナシの切り枝による花粉採取技術の検討	新 規
	11	果樹の主要樹種の品種・生育作柄把握と情報提供	継続 10 年目
薬草	1	市内の栽培に適する薬用植物の探索	継続 11 年目

イ 大学等との共同研究

No.	課題名	研究機関名
1	市内の栽培に適する薬用植物の探索	(公社)東京生薬協会
2	市場と連動した花きの消費・購買行動及び新潟市産花きの認知度向上に向けた研究	新潟薬科大学
3	センター育成系統シンテッポウユリの遺伝的特性調査	新潟大学
4	西洋ナシ‘ル レクチエ’における効果的で省力的な受粉技術の検討	現地農業者
5	ゲノム科学による新形質ソバの作出	新潟薬科大学
6	新潟産果実のブランド力強化と産地活性化のための新品種・新技術開発	新潟県農業総合研究所
7	薬用植物の実証栽培の検討	新潟薬科大学
8	加工ダイコン生育不良改善のための検討	市衛生環境研究所ほか
9	チューリップ切花における真空パック包装の検討	(株)新植
10	デジタル技術を活用した農地における炭素貯留量の評価	新潟大学
11	グリーンな栽培体系への転換サポート事業	しろね施設きゅうり持続農業協議会
12	AI ロボットを利用した薬用作物の安定生産の検討	(株)ドコモビジネスソリューションズ
13	茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業	東京生薬協会
14	新潟県に適した新規大豆品種の育成	農研機構ほか
15	生産振興に向けた大豆等土地利用型作物の機能性を利用した食品開発とブランド戦略の立案	新潟薬科大学
16	食と花の銘産品機能性成分調査	新潟薬科大学
17	いもジェンヌ機能性成分調査	いもジェンヌ農商工連携協議会

(10)みどりの農業推進事業

持続可能な農業の実現を目的に、農業における生産性向上や脱炭素化・環境負荷低減に向け、農業者の適正施肥による化学肥料の低減とコスト低減のための土壌診断事業や、環境に配慮した革新的な技術や生産体系のための研究を、生産現場の実情に応じて産官学で連携して実施した。

また、温室効果ガスの排出削減量・吸収量を国が認証する「J-クレジット制度(水稻栽培における中干し期間の延長)」の活用に向けて、農業者、農業団体、金融機関、行政等による「新潟市J-クレジット普及推進協議会」を立ち上げた。

ア 栽培実証試験 (9)-ア野菜のNo.1～3 を参照

イ 土壌分析

栽培指導の一環として、作物栽培の基本となる「土壌」の分析及び診断を行い、適正な肥培管理の推進による安定生産と品質向上を図るとともに、過剰施肥の防止による環境への負担軽減を図ることを目的に土壌分析を実施した。

令和5年度土壌分析実績

水田土壌	水田以外の土壌						合計
	露地		施設		果樹	その他	
	野菜	花卉	野菜	花卉			
96	97	15	108	0	29	1	346

ウ 大学等との共同研究 (9)-イのNo.10～13を参照

エ Jークレジット活用について(農業分野方法論「水稻栽培における中干し期間の延長」)

○勉強会の開催(R5.11) 参加者：農業者、農業団体、金融機関、行政等

○新潟市Jークレジット普及推進協議会の設立(R6.3)

区分	協議会員
農業者	(農)濁川生産組合、(株)アグリライフ、(株)白銀カルチャー、(有)米八、(有)味方ふぁーむ、 (農)七穂ライスセンター、(株)サンクスファーム黒鳥、(農)あさひ、(株)やまがら
農業団体	J A新潟市、J A新潟かがやき
金融機関	(株)第四北越銀行、第四北越リサーチ&コンサルティング(株)
行政等	(公財)食の新潟国際賞財団、新潟市

(11) 農産物高付加価値化推進事業

農業や食品産業の成長産業化の促進を図るため、農産物の様々な機能性成分に着目し、科学的根拠を裏付けとした調査研究として、新潟県に適した新規大豆の品種育成や生鮮食品の栄養成分や機能性成分の変動要因に関する研究を地元大学及び国・県・農業試験場等と共同で行った。(9)-イのNo.14～17を参照)

(12) 6次産業化サポート事業

本市農業の活性化を図るため、農産物の付加価値向上や6次産業化・農商工連携など農業者の新事業展開を支援した。

ア 相談事業

	担当者名	専門分野
農業活性化 研究センター	名誉所長 伊藤 忠雄	農業経営・経済、農村計画
	会計年度任用職員 葛西 正則	野菜栽培
	会計年度任用職員 山澤 勉	果樹栽培
	江川 和徳	米の加工、6次産業化
(公財)新潟市 産業振興財団 (新潟IPC財団)	食の技術コーディネーター 椎葉 彰典	食品加工全般、冷凍加工技術 衛生・品質管理
	統括プロジェクトマネージャー 松井 俊輔	マーケティング

イ セミナー事業実績

実施月	タイトル	参加数
9 月	FCP シート作成講座 (FCP シート作成のポイント別の解説)	130 人
9 月	FCP シート作成講座 (FCP シートの完成度最終チェック)	48 人
2 月	農業経営管理力育成セミナー (経営データの活用による収益性向上対策、収益性の向上による働きやすい職場づくり)	20 人
2 月	農業経営管理力育成セミナー (決算書の見方・考え方をマスターしよう、決算書を活用した経営課題の整理)	20 人
2 月	農業経営管理力育成セミナー (農業経営体事例演習<ケーススタディ>、班別協議による経営体改善対策の作成)	20 人
3 月	農産物の高付加価値化のための食品表示制度の活用について 【第 1 部 食品の機能性に関する様々な制度についての紹介】	90 人
3 月	農産物の高付加価値化のための食品表示制度の活用について 【第 2 部 食品の機能性に関する制度の活用事例についての紹介】	44 人
		372 人

ウ 6 次産業化・農商工連携支援補助金実績

種目・事業目的	件数	事業内容	補助金額 (千円)
1 機械・施設整備支援	6		3,034
加工食品供給	2	枝豆鞘剥ぎ機、自動果物皮むき機	437
地場農産物販路拡大	4	プレハブ冷蔵庫、非破壊糖度計、大豆用色彩選別機、精米機	2,597
2 販売支援	2		414
直飲・直食施設	1	ホームページ・パンフレット作成	316
地場農産物販路拡大	1	通信用パッケージ(箱)及び出荷用コンテナ作成	98
合計	8		3,448

(13) 畜産振興事業

ア 畜産経営支援事業

畜産業の振興及び畜産経営環境の整備を行うことにより、地域社会と調和した畜産経営の安定的な発展のための取組に対し支援した。

令和5年度事業の実績（概要）

種目・事業目的	件数	事業内容	補助金額 (千円)
(ア) 畜産振興機械・施設整備支援	0		0
(イ) 堆肥化施設維持管理支援	2	ホイルローダー修繕ほか	778
合計	2		778

イ 家畜防疫推進事業

経営の安定化と畜産物の安定供給を目的に、法定伝染病を中心とした疾病のワクチン接種並びに法定検査に対し助成を行い、家畜伝染病の発生予防対策を推進した。

令和5年度事業の実績（概要）

(ア) 家畜伝染病予防注射実績

対象ワクチン	実績頭数
豚日本脳炎（生）	800
豚日本脳炎（不活化）	1,210
豚日脳炎（パルボ）	1,237
豚丹毒（生）	0
豚丹毒（不活化）	1,600
豚マイコプラズマ病	39,272
豚流行性下痢	0
牛アカバネ病	0
牛伝染性鼻気管炎	0
牛5種混合	158
牛6種混合	73
牛ヘモフィルス感染症	0
牛コロナウイルス	0
牛下痢5種（不活化）	50

(イ) 家畜伝染病検査実績

対象検査	実績頭数
牛ブルセラ病	0
牛結核病	0
牛ヨーネ病	42

(14) 食文化創造都市推進事業

ア 目的

本市の強みである食や食文化の素晴らしさに目を向け、これらを産業の活性化や交流の拡大などにつなげ創造的なまちづくりを推進するため、食の魅力のさらなる向上や創出、国内外への発信の強化を図る。

イ 事業内容

(ア) 食文化創造都市啓発事業

食文化創造都市の推進を図るため、産官学民が連携し立ち上げた食文化創造都市推進会議の運営を行う。個人や諸団体などの事業ネットワークの構築を図るとともに、会員の異業種連携により行う推進プロジェクトへの事業支援を実施。

令和 5 年度採択事業一覧

No	プロジェクト名	内容
1	新潟ラーメン支出促進プロジェクト	秋葉区の食品加工業者で販売されている唐辛子「鬼殺し」を使用した辛いラーメンを市内および近郊地域の 10 店舗で期間限定販売するイベントの開催
2	たねをまく ちいさな量り売りマーケット	旬の野菜やおやつ、総菜などの量り売りを通じて生産者とコミュニケーションをとることのできるマーケットの開催
3	親子で食育活動大作戦	地元の旬の食材の魅力や味わいを伝える親子向けの食育体験イベントの開催

(イ) 若手料理人育成支援事業

市内農水産物の魅力発信のため、「新潟市若手料理人コンテスト 2022」受賞者による特別講義を、市内 4 校の調理師専門学校において実施した。

令和 5 年度 新潟市若手料理人コンテスト受賞者による特別講義実施一覧

学校名	日にち	対象学生	講師
にいがた製菓・調理専門学校 えぷろん	令和 5 年 10 月 18 日 (水)	1・2 年生 78 名	手紙 阿部 優礎氏 (若手料理人コンテスト 2022 グランプリ)
シェフパティシエ専門学校	令和 5 年 10 月 23 日 (月)	2 年生 42 名	
国際調理製菓専門学校	令和 5 年 11 月 7 日 (火)	2 年生 26 名	万代シルバーホテル 高野 愛理氏
新潟調理師専門学校	令和 5 年 11 月 21 日 (火)	2 年生 29 名	(若手料理人コンテスト 2022 準グランプリ)

(15) にいがた 2km 食花マルシェ

ア 目的

新潟駅～万代～古町を繋ぐ都心軸「にいがた 2km」において、8 区連携のもと本市の魅力である食と花を市内外に向けて発信する「食花マルシェ」を開催することで、人の交流促進や物の需要喚起を図り、まち全体の賑わい創出を図る。

イ 事業内容

(ア) 開催日 令和 5 年 10 月 7 日（土）～10 月 8 日（日） 10:00～16:00

(イ) 会場 万代シテイ十字路（新潟市中央区万代 1-6-1）

(ウ) 出店者数

区 分	出店者数	小間数	出 店 者
食	57 者	68 小間	・生産者 ・JA（JA 全農にいがた、JA 新潟市、JA 新潟かがやき） ・飲食店 ・専門学校 ・農福連携 ・8 区役所など
花	8 者	12 小間	・生産者 ・生花店 ・造園会社など
合 計	65 者	80 小間	

※市内外から 3 万 8 千人を超える来場

ウ 食花ミニマルシェ

(ア) 目的

新潟駅～万代～古町を繋ぐ都心軸「にいがた 2km」において、本市の魅力である食と花を市内外に向けて発信する「にいがた 2km 食花マルシェ 2023」と一体となるイベントとして、古町どんどんと連携した「食花ミニマルシェ」を開催し、生産者と来訪者との交流を促すことで、食と花の魅力を再認識してもらうとともに、地域への愛着や地元農産物の消費拡大、まちの賑わい創出に繋げる。

(イ) 開催日 令和 5 年 10 月 14 日（土）～10 月 15 日（日） 10:00～17:00

(ウ) 会場 古町ルフル広場（新潟市中央区古町通 7 番町 955）

(エ) 出店者数 6 者（生産者、飲食店など）

(16) 新潟の食と花の PR

地産地消の推進及び食と花の銘産品の PR を実施することで、市内産農産物の消費拡大や地域農業の振興を図る。

ア 地産地消推進事業

(ア) 目的

地場産農産物の域内流通・消費拡大により、生産者の所得拡大と消費者の理解促進を図る。

(イ) 事業内容

市内産農産物等を積極的に販売し、PR する小売店や飲食店等を地産地消推進の店に認定し、その取り組みを広く周知する。

■地産地消推進の店認定状況

(単位：件)

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
小売店	115	112	109	107
飲食店	203	173	171	141
社員食堂	19	19	14	14
合計	337	304	294	262

イ 食と花の銘産品事業

(ア) 目的

全国に向けて自慢できる本市の園芸品目、畜産物及び水産物（以下、農畜水産物）を「新潟市食と花の銘産品」に指定し、関係機関・団体と協力し、市内外に向けて積極的に情報発信するとともに、消費拡大等を支援することにより、本市の農水畜産業のさらなる振興を図る。

(イ) 概況

平成 15 年度までに、新テッポウユリ「ホホワイト阿賀」、「にいがた十全なす」、「新潟すいか」、「くろさき茶豆」、「女池菜」の 5 品目を「園芸銘産品」（現、食と花の銘産品）に指定した。

平成 17 年に近隣 13 市町村と広域合併し、全国トップクラスの大農業都市になったことから、11 月に西洋なし「ル レクチエ」と食用菊「かきのもと」の 2 品目を、18 年 2 月に、いちご「越後姫」、トマト（大玉系）、やきなす、ながいも、日本なし「新高」、「新興」、ぶどう「巨峰」、うめ「藤五郎梅」、かき「越王おけさ柿」、チューリップ（球根・切花）、アザレア及びボケの 12 品目、計 14 品目を「食と花のにいがた」を代表する「園芸銘産品」（現、食と花の銘産品）として新たに指定した。

平成 19 年度には、畜産・水産物を新たに対象に加えた「食と花の銘産品事業」に改め「しろねポーク」と「南蛮えび」、「さくらます」、「あまだい」、「やなぎがれい」及び「のどぐろ」を指定品目に加えた。

平成 21 年度には、「クリスマスローズ」を指定品目に加えた。

平成 24 年度には、いちじく「越の雫」を指定品目に加えた。

平成 29 年度は、「さつまいも」「いもジェンヌ」の生産団体が行う消費宣伝活動等 PR 事業に対して支援を実施した。

平成 30 年度には、「やわ肌ねぎ」、「さつまいも」「いもジェンヌ」を指定品目に加え、現在 29 品目により事業を展開している。

(ウ) 食と花の銘産品指定品目数・出荷額等

令和 5 年度 29 品目 5,084,219 千円

新潟市食と花の銘産品 指定品目一覧

No.	区分	品目	生産団体又は生産地区	指定 年度
1	花き	新テッポウユリ「ホワイト阿賀」	ホワイト阿賀生産推進委員会	11
2	野菜	にいがた十全なす	JA 新潟市なす部会	12
3	野菜	新潟すいか	JA 新潟市すいか部会 新潟西すいか部会	15
4	野菜	くろさき茶豆	黒埼地区茶豆組合協議会	15
5	野菜	女池菜	女池女池菜生産組合	15
6	果樹	西洋なし「ル レクチエ」	市内全域	17
7	野菜	食用菊「かきのもと」	しろねかきのもと部会	17
8	野菜	いちご「越後姫」	市内全域	17
9	野菜	トマト（大玉系）	豊栄、濁川	17
10	野菜	やきなす	豊栄	17
11	野菜	ながいも	横越、巻	17
12	果樹	日本なし「新高」	市内全域	17
13	果樹	日本なし「新興」	市内全域	17
14	果樹	ブドウ「巨峰」	白根、中之口、月潟	17
15	果樹	うめ「藤五郎」	亀田	17
16	果樹	かき「越王おけさ柿」	巻	17
17	花き	チューリップ（切花・球根）	市内全域	17
18	花き	アザレア	新津、小須戸、白根	17
19	花き	ボケ	新津、小須戸、白根	17
20	畜産物	しろねポーク	白根畜産部会	19
21	水産物	南蛮えび	—	19
22	水産物	さくらます	—	19
23	水産物	あまだい	—	19
24	水産物	やなぎがれい	—	19
25	水産物	のどぐろ	—	19
26	花き	クリスマスローズ	新潟県花き出荷組合クリスマスローズ部会	21
27	果樹	いちじく「越の雫」	JA 新潟かがやきいちじく部会	24
28	野菜	やわ肌ねぎ	市内全域	30
29	野菜	さつまいも「いもジェンヌ」	新潟西かんしょ部会	30

(17) 新潟市健幸づくり応援食品認定事業

ア 目的

機能性に関する科学的報告がある成分を含む食品及び、健康づくりに配慮された食品に関し、本市独自の認定を付与することにより、本市に関わりのある食品のブランド化、差別化による高付加価値化の実現を図るとともに、市民に対し健康維持・増進に関する情報提供を行うことを目的に平成 28 年 9 月に創設。

イ 認定内容

申請対象者：製造者、農業者

認定対象食品：以下の要件を満たすもの

- ①加工食品（サプリメントを除く）
 - ②市内に本社がある製造者・農業者が製造する食品、または市内で製造された食品、もしくは主な原材料に市内産一次産品を用いた食品
 - ③日本食品標準成分表に掲載の同種の食品が含有する食塩相当量（ナトリウム含有量）を原則超えない食品
- ※生鮮食品については、令和 6 年度から申請受付停止

認定基準

(ア) パターン A

対象成分の含有量について日本食品標準成分表の同種の食品と比べ 10%以上の増減が認められる場合に特定の栄養成分（カルシウム、ビタミン C など）の含有量を認定

(イ) パターン B

関与成分（ポリフェノール、GABA など）に健康な身体づくりのための科学的報告がある事実を認定

ウ 概況

(ア) これまでの認定食品数（令和 6 年 3 月 31 日時点）

累計：8 社 14 食品

第 1 回（H29. 3. 14）	3 社	3 食品
第 2 回（H29. 9. 26）	1 社	3 食品
第 3 回（H30. 3. 2）	1 社	1 食品
第 4 回（H30. 10. 4）	2 社	3 食品
第 5 回（H31. 3. 12）	2 社	2 食品
第 6 回（R1. 10. 29）	1 社	2 食品
第 7～15 回	該当食品なし	

※ただし、上記のうち 10 食品が認定取下げのため、現在の販売食品は 3 社 4 食品

(イ) 令和 6 年 5 月 1 日時点の認定食品一覧

	食品名	事業者名	対象成分	認定区分
第 2 回	塩分 0%味噌風味調味料	石山味噌醤油(株)	食塩相当量 (ナトリウム)	パターン A
第 4 回	ジマンうす塩しょうゆ (1L、370ml)	新潟醤油(株)	食塩相当量 (ナトリウム)	パターン A
	ジマンまるやかしょうゆ (300ml)	新潟醤油(株)	食塩相当量 (ナトリウム)	パターン A
第 5 回	秋葉の里 白雪もち麦	(福)親和福社会	大麦β-グルカン	パターン B

(18) 園芸作物販路拡大促進

ア 目的

儲かる農業の実現を目指し、令和 3 年 4 月に市内農業団体等と設立した「新潟市園芸作物販売戦略会議」を中心に、地域一体となって園芸作物の販売促進・販路開拓に取り組む。

イ 令和 5 年度概況

(ア) 市場関係者向け市産農産物のトップセールス(すいか、えだまめ、おけさ柿、ル レクチエ)

市場関係者(卸売業者、仲卸業者、売買参加者)向けにトップセールスを実施し、市産農産物を PR するとともに、卸売業者との意見交換を通じて最新の市場動向を収集するなど、販路開拓や販売額の増加に向けて取り組んだ。

a 大田市場でのすいかトップセールス

日時：令和 5 年 7 月 4 日(火)

会場：東京青果(株)、東京荏原青果(株)

b 大田市場でのえだまめトップセールス

日時：令和 5 年 7 月 20 日(木)

会場：東京青果(株)、東京荏原青果(株)

c 新潟市中央卸売市場でのおけさ柿トップセールス

日時：令和 5 年 10 月 6 日(金)

会場：新潟中央青果(株)

d 新潟市中央卸売市場でのル レクチエトップセールス

日時：令和 5 年 11 月 22 日(水)、11 月 30 日(木)

会場：新潟中央青果(株)

(イ) 新潟県と連携した百貨店等における市産農産物のプロモーション

新潟県と連携して、首都圏や関西圏、中京圏の百貨店において市産農産物のプロモーション販売を実施した。

品目	実施期間	場所
大玉すいか	7月1日・8日	<首都圏>2店(2回) <関西圏>5店(5回)
えだまめ	8月5日・6日・19日・20日	<関西圏>5店(9回) <中京圏>1店(1回)
日本なし	8月19日・20日 9月23日・30日、10月21日	<関西圏>5店(11回)
おけさ柿	10月28日、11月4日・11日	<関西圏>5店(8回)
ル レクチュエ	12月5日・6日・12日・13日	<首都圏>2店(2回) <関西圏>5店(10回)

(ウ) 園芸作物の生産拡大・販路開拓に向けたマッチングアプリの活用

ITベンチャーなどと園芸作物の生産拡大・販路開拓に向けた労働力確保支援に関する連携協定を令和3年12月に締結し、令和4年3月にマッチングアプリ「1日農業バイト daywork」の運用を開始した。

区分	登録園芸農家数	経営面積合計
JA新潟かがやき	51 者	349.4ha
JA新潟市	4 者	2.1ha

※令和6年3月31日時点

(19) 食と花の世界フォーラムにいがた

ア 食と花の世界フォーラムにいがた

新潟市が誇る食と花の魅力と個性を国内外に広く発信するとともに、産官学が連携して食関連産業による拠点性の向上と、世界に貢献できる都市ブランドを構築するため、食の国際総合見本市事業等を展開した。

(ア) 第15回食の国際総合見本市（フードメッセ in にいがた 2023）

本州日本海側最大の食の国際総合見本市を開催し、38都道府県、1海外から、合わせて488事業者が出展、食関連ビジネスマンなど過去最多の12,589名の来場があった。一次産業から厨房機器、容器包装などの事業者が出展したほか、オンライン商談やセミナーを実施した。また、お米未来展、にいがた6次化フェアを同時開催することで、総合性の高い見本市となった。

a 開催期間 令和5年11月8日（水）～11月10日（金）

b 会場 朱鷺メッセ（新潟市中央区）

c 参加者 488事業者 12,589名

開催年度	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
出展事業者数	439	239	324	404	488
来場者数	10,232	5,868	7,716	9,159	12,589

(イ) 新潟「食と健康」フォーラム

「食と健康」について広く市民に発信することを趣旨とし、学術面の成果を市民に広く還元

するとともに、市民の食と健康および新潟の食文化に対する意識を高め、健康増進・食文化の理解に寄与することを目的に、県内の大学教授や食生活改善推進員協議会 新潟県会長を講師に開催した。

- a 開催日時 令和5年10月22日（日）13：30～16：00
- b 開催場所 新潟市食育・花育センター2階 講座室
- c 開催内容 テーマ「新潟のお米と食文化」
第1部「新潟の風土が育てた食と食文化」
第2部「健康寿命を延ばすための食事や運動
～普段の生活で気にしてみること～」
第3部「お米と健康について～健康に良い色々なお米～」
- d 参加者数 77名

(ウ) 花き産業振興事業（にいがた花フェスタ「フラワーバレンタイン EVENT in ラブラ」）

フラワーバレンタインの時期に合わせて市内商業施設で新潟市の花「チューリップ」を中心とした花のPRイベントを実施した。

- a 開催期間 令和6年2月3日（土）～14日（水）
- b 会場 ラブラ2（新潟市中央区万代）
- c 実施内容 若年層など花の新たなファン獲得に向け、チューリップ切り花の販売、専門学校によるバレンタインスイーツの販売、市内生花店によるフラワーギフト展示、フラワーアレンジメントワークショップ、新潟市出身のパチェラー長谷川氏によるチューリップ花束のお渡し会・記念撮影会を実施した。

(20) 給食への地場農産物供給事業

地場農産物を学校給食に供給することにより、学校給食の充実、食育の推進、地場農産物の生産振興・消費拡大を図るため、月ごとの入荷・価格予測情報の提供及び区の取り組みに対する支援を行った。

ア 価格予測情報の提供

学校給食でよく使用する野菜等の入荷及び価格予測を栄養教諭や学校給食食材納入業者等へ毎月情報提供を行った。

イ 地場農産物のコーディネート事業

地域の関係者との協働により、学校給食に地場農産物が円滑に供給できるようコーディネート事業を行った。

実施地区	内容
南区（味方）	地元生産者組織に地場農産物の円滑な導入のためのコーディネートを委託
西蒲区（西川を除く）	地元直売所や地元生産者団体に地場産農産物の円滑な導入のためのコーディネートを委託

ウ SNS等を活用した学校給食のPR

学校や給食センターの栄養教諭と連携し、旬の地場農産物を使用した給食の情報を提供してもらい、SNSやクックパッドを活用して市民へ周知することにより、給食を媒体として地産地消や食育に関する普及啓発を行った。

(21) 国家戦略特区推進事業

ア 指定までの経緯

- ・ H23年度～ 新潟ニューフードバレー構想によるプロジェクト開始
市町村合併で集積した豊富な農作物や食品関連産業の力を活かし、6次産業化や高付加価値商品の開発などを支援。
- ・ H25. 9. 5 国際的な農業・食品産業の拠点をつくる「ニューフードバレー特区」、日本海側の拠点都市として機能充実を図る「環日本海ゲートウェイ特区」、ベンチャー企業の起業を支援する「簇業（そうぎょう）特区」を国に提案
- ・ H26. 5. 1 大規模農業の改革拠点として国家戦略特区指定

イ 区域方針（H26. 5. 1 内閣総理大臣決定）

- ・ 目標 地域の高品質な農産物及び高い生産力を活かし革新的な農業を実践するとともに、食品関連産業も含めた産学官の連携を通じ、農業の生産性向上及び農産物・食品の高付加価値化を実現し、農業の国際競争力強化のための拠点を形成する。あわせて、農業分野の創業、雇用拡大を支援する。
- ・ 政策課題
 - (1) 農地の集積・集約、企業参入の拡大等による経営基盤の強化
 - (2) 6次産業化及び付加価値の高い食品開発
 - (3) 新たな技術を活用した革新的農業の展開
 - (4) 農産物及び食品の輸出促進
 - (5) 農業ベンチャーの創業支援

ウ 区域会議開催実績（新潟市関連分）

H26. 7. 18	第 1 回区域会議	区域計画素案について
H26. 12. 3	第 2 回区域会議	認定申請を行う区域計画について
H27. 6. 9	第 3 回区域会議	認定申請を行う区域計画について
H27. 11. 26	第 4 回区域会議	認定申請を行う区域計画について
H28. 3. 24	第 5 回区域会議	1 次指定区域に係る評価について
H28. 8. 31	第 6 回区域会議	認定申請を行う区域計画について
H29. 4. 20	第 7 回区域会議	認定申請を行う区域計画について
H29. 5. 16	第 8 回区域会議	指定 10 区域の評価について
H30. 3. 8	第 9 回区域会議	認定申請を行う区域計画について
H30. 5. 30	第 10 回区域会議	指定 10 区域の評価について
R 元. 5. 31	第 11 回区域会議	指定 10 区域の評価について
R2. 2. 28	第 12 回区域会議	認定申請を行う区域計画について
R2. 5. 28	第 13 回区域会議	指定 10 区域の評価について
R3. 6. 7	第 14 回区域会議	指定 10 区域の評価について
R4. 5. 31	第 15 回区域会議	指定 10 区域の評価について
R5. 6. 19	第 16 回区域会議	指定 10 区域の評価について

エ 規制緩和活用実績（農業関連）

項目	計画認定日	実施主体	内容等（R5.3末時点）
農業生産法人に係る農地法等の特例	H26.12.19	(株)ローソン	H27.3.25 (株)ローソンファーム新潟設立（全国初の特例農業法人）
		新潟麦酒(株)	H27.11.26 (株)ビアファーム設立
	H27.6.29	(株)新潟クボタ	H27.9.18 (株)NKファーム新潟設立
		(株)WPPC	H27.11.26 (株)グリーンズグリーン設立
		(株)セブンファーム新潟	H27.8.27 (株)セブンファーム新潟市設立
		(株)ars-dining	H27.7.31 特例農業法人へ移行
		(株)アイエスエフネットライフ新潟	H27.8.27 (株)たくみファーム設立
	H27.11.27	東日本旅客鉄道(株)	H28.2.22 (株)JR新潟ファーム設立
		(株)ひらせいホームセンター	H28.2.22 (株)ひらせいファーム設立
農業委員会と市の事務分担に係る特例	H26.12.19	新潟市	企業参入に係る部分のみ分担
	H27.11.27	新潟市	H28.4から企業参入以外も分担
農家レストランの設置に係る特例	H26.12.19	(有)フジタファーム	H28.3.18 全国初の農家レストラン「ラ・ビステッカ」オープン
		(有)ワイエスアグリプラント	H28.5.20「農園のカフェ厨房トネリコ」オープン
		(有)高儀農場	H28.5.14「ラ・トラットリア・エストルト」オープン
農業への信用保証制度の適用	H26.12.19	新潟市	H27.1から運用開始 48件、約4億6千万円の融資実行
課税の特例措置	H27.11.27	ウォーターセル(株)、(株)IHI	H28.3から革新的な農業情報サービスの研究開発を実施
雇用労働相談センターの設置	H27.6.29	内閣府、厚生労働省、新潟市	H27.10.29開設 延べ相談件数：4,290件 (農業関連：365件)
旅館業法の特例	H29.5.22	新潟市	H30.5.28第1号認定 「ガーデンソフィア」オープン R3.12.28第2号認定 「アグリ民泊 麦んち。」オープン R5.12.14第3号認定 「GUESTHOUSE HANARE」オープン

項目	計画認定日	実施主体	内容等（R5.3末時点）
外国人農業支援人材の受入に係る出入国管理及び難民認定法の特例	H30.3.9	内閣府、東京出入国在留管理局、新潟労働局、北陸農政局、新潟市	H31.4から受入開始 受入人数4名 派遣先2件
革新的農業実証支援ワンストップセンターの設置	R2.3.18	内閣府、農林水産省、国土交通省、総務省、警察庁、新潟市	R2.3.19開設 延べ相談件数37件 延べ実証実験実施12件

オ 特区効果（農業分野に関する連携協定等）の実績

時期	内容	関連企業
H27.1	農産物高付加価値化プロジェクトに関する連携協定締結	(株)電通、ゲノメディア(株)
H27.2	地域活性化包括連携協定締結	(株)ぐるなび
H27.3	高付加価値・低コストな植物工場の実証開始	パナソニック(株)
H27.5	革新的稲作営農管理システム実証プロジェクトに関する連携協定締結	(株)NTTドコモ、ベジタリア(株)、ウォーターセル(株)
H27.7	独自のekレシピを活かした栽培指導ツールの開発	PSソリューションズ(株)
H27.10	長距離無線通信を活用した圃場センシングソリューションのトライアル実施	NTT東日本(株)
H28.9	新潟市ドローン実証プロジェクトに関する連携協定締結	(株)NTTドコモ、ベジタリア(株)、(株)自律制御システム研究所、エアロセンス(株)
H29.5	ICT田植機による田植えの実証実験	(株)キセキ信越
H29.8	ドローンによる水稻の薬剤散布の実証実験	(株)ローソンファーム新潟、(株)新潟クボタ
H29.9	ICTコンバインによる稲刈りの実証実験	(株)キセキ信越
H30.5	スマート農業企業間連携実証プロジェクト	井関農機(株)、(株)キセキ信越、(株)スカイマティクス、国際航業(株)、ウォーターセル(株)
H30.6	遠隔操作による水管理実証プロジェクト	積水化学工業(株)、(株)NTTドコモ、ベジタリア(株)、ウォーターセル(株)
H30.9	自動運転コンバイン及び自動運転トラクタの連携による稲刈り同時耕うん	(株)クボタ、クボタアグリサービス(株)、(株)新潟クボタ
H31.4	農林水産省「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」 ①農業データの一元管理によるスマート農業体系の実証 ②大規模水田輪作（水稻・大豆）における園芸作物（枝豆）導入に向けたスマート農業一貫体系の実証	①スマート農業企業間連携実証コンソーシアム（井関グループ他、9社連合） ②新潟市スマート農業複合経営モデル実証コンソーシアム（クボタグループ他、11社連合）

時期	内容	関連企業
R3. 1	AR等の技術を利用した人材育成の効率化のための実証研究事業	新潟農業・バイオ専門学校、(株)ベジ・アビオ、(株)NTT ドコモ新潟支店、新潟県、他
R3. 4	農業データシェアリング実証プロジェクト ・管理圃場の地図データおよび農作業履歴データ ・人工衛星による広域リモートセンシングデータ（葉色診断や収穫適期診断） ・雑草・病害虫診断データ	南区の農業法人 4 団体、ウォーターセル(株)、国際航業(株)、日本農薬(株)、新潟農業普及指導センター
R3. 4	米のオンライン契約栽培仲介サービスを活用した新規販路開拓の取り組み	ウォーターセル(株)、(株)神明
R4. 1	先端技術を活用した持続可能な農業の推進に関する連携協定	井関農機(株)

カ 革新的農業実証支援ワンストップセンター

- (ア) 目 的 農機の自動運転、自動航行機能付き無人航空機による薬剤散布、農業ICT機器の遠隔操作及びこれらに関連する電波利用などの実証実験を、円滑かつ迅速に実施できるよう関係機関との横断的な調整を一元的に支援する。
- (イ) 受付時間 月曜～金曜 8:30～17:15（祝日、年末年始を除く）
- (ウ) 対 象 者 新潟市域で農業分野における実証実験を希望する企業、試験研究機関、大学、その他団体など
- (エ) 支援内容
- ・実証実験に必要な手続きに関する相談対応（関係機関への確認を含む）
 - ・関係機関との調整、関係機関への情報提供（一元調整、一括回答）
 - ・実証フィールドに関する土地管理者との調整
 - ・実証実験の実施に係る地域への周知等

(22) 新潟発 わくわく教育ファーム推進事業

ア 農業体験学習の推進

学習と農業体験が結びついたプログラム「アグリ・スタディ・プログラム」などに沿った農業体験学習を推進した（以下の数字は市内の園・校の延べ実施数）。

(ア) アグリパーク、いくとぴあ食花（※団体体験プログラムは除く）

年度	アグリパーク				いくとぴあ食花	
	宿泊		日帰り		日帰り	
	園・校数	人数	園・校数	人数	園・校数	人数
令和元年度	23	643	131	6,993	4	180
令和2年度	9	232	88	3,956	5	277
令和3年度	9	224	118	5,398	6	310
令和4年度	7	143	134	6,362	4	253
令和5年度	5	100	148	6,810	3	246

(イ) 学校教育田設置事業

田植え・稲刈り及び収穫祭等、年間の農作業体験を通じて、米の消費拡大と次世代を担う子どもたちに農業及び米に対する理解を深めてもらうとともに、米を中心とした日本型食生活の普及及び定着化を図るため、係る経費について助成を行った。市内の農業協同組合が事業主体となる。

区別実施校数

	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	計（校）
令和元年度	10	10	9	11	12	8	12	9	81
令和2年度	7	9	5	8	11	9	10	8	67
令和3年度	9	6	6	10	10	7	5	9	62
令和4年度	9	9	5	10	11	9	13	9	75
令和5年度	8	9	5	10	11	9	13	10	75

農協別事業実績（令和5年度）

農協別内訳	実施校数 (校)	事業量 (a)	補助金額 (円)	補助金額算定
新潟市農業協同組合	25	187.81	1,871,600	(1)指導料 (2)収穫補償料 (3)学校に提供する 米の費用
新潟かがやき農業協同組合	50	327.82	3,405,200	
計	75	515.63	5,276,800	

(23) 食と農のわくわく SDGs 学習推進事業

ア 目的

新潟市の豊かな「食」と「農」を活かし、主に小学校高学年から大学までの探究的な学習において、農業体験学習や企業訪問、食と農に関する専門家を外部講師として招いた授業などを実施して、主体的・対話的で深い学びの実現により食や農に対する理解を深め、ふるさとへの誇りや愛着、生きる力を培うとともに、将来、食や農の産業を支える人材の育成につなげる。

イ 事業内容

令和5年度はモデル校を小学校から大学までの12校に拡大し、学習の伴走支援を行った。昨年度から継続して取り組んでいる実践校3校と合わせて、計15校の学習を支援した。

さらに、次年度の実施校の学習に活用するため、取組校の学習を取りまとめて実践事例集を作成したほか、専門学校と連携して教材用動画を制作し、微細粉の米粉製粉機をアグリパーク食品加工支援センターに導入した。

	令和4年度	令和5年度
学校数	5	15

(24) 農・福連携事業

ア 目的

障がいのある人の生きがいがいづくりと社会参加に資するため、農業、食、園芸、動物の癒し効果を活用した体験プログラム「アグリ・ケア・プログラム」を推進し、障がいの特性や程度に応じた農業、食、園芸の体験や動物とのふれあいなどを通して、豊かな暮らしを後押しする。

イ 事業内容

令和2年度から令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により事業を休止し、令和5年度に事業を再開、8施設82人がプログラムを利用した。

		プログラム区分				合計 (延べ)
		農業	食	園芸	動物	
令和5年度	施設数	0	1	7	0	8
	人数	0	9	73	0	82

(25) 食育の推進

新潟市食育推進条例の基本理念に基づき、食を取り巻く現状から見えてきた課題を踏まえ、市民一人ひとりが生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育むことができる、いきいき暮らせる活力ある住みよいまち“新潟”の実現を目指し、本市の特色ある基盤を生かした「食育」を推進した。

ア 食育推進計画の進行管理

「第4次新潟市食育推進計画（R4～R8）」の着実な実行に向け、学識経験者、関係団体の代表者、教育関係者、市民などで構成する「新潟市食育推進会議」において、計画の進捗状況についての評価や食育推進事業について検討を行った。（令和5年度：書面にて意見聴取）

イ 「食育の日」の普及啓発

年3回（6月、10月、3月）の食育の日に、食育の普及啓発活動の一環として、下記の取組を実施した。

（ア） 飲食店における特別メニュー等の提供（平成18年度から実施）

地場の旬の食材の使用や野菜の使用量、食事バランスに配慮した特別メニュー等を提供

（イ） スーパーマーケット等における取組（平成19年度から実施）

食に関するリーフレット等を配布するほか、地場産食材の販売やメニューの提案など、独自の取組を実施

「食育の日」協力店登録店舗数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
飲食店	19店舗	22店舗	22店舗	19店舗	16店舗
小売店	13社96店舗	14社98店舗	14社103店舗	14社100店舗	14社98店舗

ウ 食育マスターの登録、紹介

食育に関する優れた知識、技術、技能及び経験を有する人材を「新潟市食育マスター」として登録し、学校、職場、市民団体等が行う食育活動へ講師紹介することで、食育活動の推進を図った。（平成24年度創設）

食育マスター登録者数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
個人	50人	49人	48人	31人	30人
団体	6団体	7団体	7団体	6団体	6団体

エ 学生、企業と連携した食環境づくり

市内大学の健康栄養学科の学生及び消費者の生活に密接に結びついている小売店と連携し、健康に配慮した商品の考案を通して、普段の食生活の振り返りと市民の食育や健康への意識向上を図った。

(26) 花育の推進

全国に誇る花の大産地である本市が、「花や緑」を大切に育み、一層こころ豊かなまちとなることで、名実ともに「食と花の政令市にいがた」をつくりあげることがを目的に、市民をはじめ、生産や流通、販売、そして教育や福祉に携わる多くの皆様と行政等が一体となり花育を推進した。

ア 「花育の日」の普及啓発

年2回(4月、10月)の花育月間に、花育の普及啓発活動の一環として、下記の取組を実施した。

(ア) 市内小売店と連携した取組

のぼり旗の掲揚、花の種のプレゼントの他、花育に関する店舗独自の取組を実施した。

(花育の日協力店 令和5年4月：30社42店舗)

(イ) G7新潟駅南ステーションガーデンの植え替え

G7で整備された新潟駅南口広場のステーションガーデンの植え替えを、市民ボランティアを募り実施した。「花育の日」として誰でも参加できる寄せ植えワークショップも開催した。

(令和5年10月参加：ボランティア42人、花育マスター7人、寄せ植えワークショップ10人)

イ 花育マスターの登録、紹介

地域における花育を推進するため、花や緑に関する専門家を、「新潟市花育マスター」として登録し、学校、職場、市民団体等が行う花育活動の講師、インストラクターとして紹介した。

(令和5年度：登録者数 個人59人、団体1)

ウ 幼保こども園向け寄せ植え事業

花育によるリラックス効果や一年中花を楽しむ暮らしを子どもから大人まで実感してもらい、各園で継続的に取り組むきっかけとなることを目指すため、保育園、幼稚園、こども園から12園を選定し、子どもと保育者向けに花育マスターによる秋の寄せ植えを実施した。

(令和5年度参加：12園378人)

(27) 農村・都市交流の推進

ア 都市型グリーン・ツーリズム推進事業

農業・農村の資源を活用してその魅力を発信し、農村と都市の双方の魅力を味わえる都市型グリーン・ツーリズムの推進のため、グリーン・ツーリズム施設や、農林漁業・食・自然体験の情報などを発信した。

イ 農業サポーター推進事業

都市住民の農業への理解と関心を高めるとともに、農家の労働力不足の解消の一助とするため、農業に関心のある都市住民を農業サポーター(ボランティア)として登録し、農業に理解を持ってほしい、消費者と交流したいという農家の農作業を手伝ってもらう農業サポーター事業を実施した。

(ア) 実施期間

令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月

(イ) 過去 10 年間の経過

活動年度	受入農家	参加サポーター数	サポーター活動日数
平成 26 年度	54 軒	355 人	5,444 人日
平成 27 年度	60 軒	392 人	5,715 人日
平成 28 年度	55 軒	381 人	5,625 人日
平成 29 年度	54 軒	377 人	5,622 人日
平成 30 年度	49 軒	276 人	3,137 人日
令和元年度	46 軒	298 人	3,671 人日
令和 2 年度	47 軒	360 人	3,358 人日
令和 3 年度	51 軒	415 人	2,771 人日
令和 4 年度	45 軒	423 人	2,795 人日
令和 5 年度	44 軒	465 人	3,286 人日

ウ 市民農園

市民が野菜や花の栽培を通じて、自然にふれ合うとともに農業に対する理解を深めてもらうことを目的として市及び地元地権者の組合が開設している。すこやか農園は市街化区域内農地の有効活用と市民の健全な余暇活動を促すため、農家が開設している。

(ア) 北区・長浦市民農園

利用者協議会が組織され積極的に地域との交流を深める活動や作付け指導会を行っている。

入園継続年数は 3 年とし、3 年毎に全区画再募集を行っている。

開設年度	所在地	区画数
H9 年度	北区浦木 2317-1	25

(イ) 北区・濁川ふれあい農園

都市住民の農業への理解を深め、新たな農業経営の展開による濁川地域の活性化を図ることを目的に開設し、濁川ふれあい農園組合が管理運営する市民農園である。入園継続年数は 1 年（継続可）としている。

開設年度	所在地	農園の種類	区画数
H10 年度	北区濁川 4251	【標準農園】 野菜、草花の栽培・収穫	291
		【果樹付標準農園】 果樹、野菜、草花の栽培・収穫	11
		【オーナーハーブ園】 ハーブの栽培管理・収穫	14

(ウ) 中央区・すこやか農園

各農園とも入園継続年数を3年とし、3年毎に全区画再募集を行っている。

開設年度	農園名	所在地	区画数
H 元年度	上所すこやか農園	中央区上所上 2-8	40
H10 年度	ファミリーファーム近江すこやか農園	中央区上近江 3-25	51
H12 年度	高志すこやか農園	中央区高志 1-5	80
計	3ヶ所		171

(エ) 江南区・すこやか農園

入園継続年数を3年とし、3年毎に全区画再募集を行っている。

開設年度	農園名	所在地	区画数
S56 年度	第1号ミニ農園	江南区所島 1-7	9

(オ) 秋葉区・小須戸地区市民農園

「花とみどりのシンボルゾーン」の施設として開設している。入園継続年数は5年とし、5年毎に全区画再募集を行っている。

開設年度	所在地	区画数
H18 年度	秋葉区小須戸 893-1	100

(カ) 秋葉区・蒲ヶ沢市民農園

入園継続年数は1年（継続期間は応相談）としている。

開設年度	所在地	区画数
H27 年度	秋葉区蒲ヶ沢大入 50～53	28

(キ) 西区・黒埼地区市民農園

各農園とも入園継続年数を3年とし、3年毎に全区画再募集を行っている。

開設年度	農園名	所在地	区画数
H4 年度	金巻市民農園	西区金巻 243	56
H15 年度	鳥原市民農園	西区鳥原 2247-1	40
H30 年度	板井市民農園	西区板井 2611-1	40
計	3ヶ所		136

(ク) 西蒲区・越前浜市民農園

越前浜の砂丘地帯に開設し、低農薬栽培区画・慣行栽培区画に区別しているほか、駐車場、トイレ、シャワー（温水は有料）、休憩室、ロッカーなどを完備している。入園継続年数は5年とし、5年毎に全区画再募集を行っている。

開設年度	所在地	区画数
H17 年度	西蒲区越前浜 6803-4	96

(ケ) 西蒲区・中之口市民農園

「中之口農業体験公園」の施設として開設し、駐車場、トイレ、シャワー室、休憩室、ロッ

カーなどを完備している。入園継続年数は5年とし、5年毎に全区画再募集を行う。

開設年度	所在地	区画数
H24 年度	西蒲区東小吉 775-1	60

エ 体験農園

市内に在住する農業者以外の方が、栽培体験作物別の「植付け」、「草刈り」、「収穫」などの作業を通じて、自然にふれ合うとともに農業に対する理解を深めてもらうことを目的として、市が開設し入園者を公募している。

令和5年度 実績一覧

(ア) 秋葉区・花とみどりのシンボルゾーン体験農園

「花とみどりのシンボルゾーン」内の施設として開設し、募集を行っている。

体験品目	参加者数（組）
6 作物コース (じゃがいも・枝豆・さつまいも・大根・白菜・キャベツ)	100

(イ) 西蒲区・中之口農業体験公園内体験農園

「中之口農業体験公園」内の施設として開設し、募集を行っている。

体験品目	参加者数（組）
枝豆・いも収穫コース	15

オ 収穫農園

農業への理解、地域活性化、また地域農産物の消費拡大を図るため、栽培・管理を農家が行い、消費者が収穫する「収穫農園」を実施した。また、収穫体験を通して、農家と交流し、地場産の農産物への理解を深めることを目的に、「親子収穫体験」を実施した。

令和5年度 実績一覧

収穫農園			親子収穫体験		
品目	所在地	参加者数 (組)	品目	所在地	参加者数 (組)
トマト	北区南浜	43	すいか	西区赤塚	56
イチジク越の雫	西蒲区升潟	36	くろさき茶豆	西区黒鳥	37
			ルレクチェ	西区坂井輪	49
			大根	西区赤塚	20
			さつまいも (べにはるか)	西区赤塚	73
			メロン	西区赤塚	72
計		79	計		307

(28) 保安林・里山

新潟市は、信濃川、阿賀野川、佐潟、鳥屋野潟、福島潟等の川辺のほか、にいつ丘陵、角田山、多宝山、海岸保安林等、豊かな自然環境を有している。

森林法(昭和26年法律第249号)第5条の規定による地域森林計画の対象森林(0.3ha以上の一団の森林)は5,434haで、市域の約7.5%を占める。

また、本市は58.6kmの長い海岸線を有している。この海岸線に沿って帯状に保安林が連なり、その面積は1,085haに及ぶ。その約63%は飛砂防備保安林となっており、内陸側にある市街地や田畑を季節風による飛砂や風潮害から守る重要な役割を果たしている。

地域森林計画の対象森林



地区別森林面積

(単位：ha)

地区 面積	北区	東区	中央区	秋葉区	西区	西蒲区	合計
森林面積	283	5	52	1,473	325	3,296	5,434
うち保安林	220	0	48	20	302	495	1,085

出典：森林面積…2020年農林業センサス

保安林面積…新潟県新潟地域振興局（令和6年3月31日現在）

（注）端数処理のため合計と内訳が一致しない。

保安林指定の目的別面積

(単位：ha)

地区 保安林の種類	北区	中央区	秋葉区	西区	西蒲区	合計
水源かん養保安林 (うち保健保安林を兼種)					336.96 (336.96)	336.96 (336.96)
土砂流出防備保安林					42.02	42.02
土砂崩壊防備保安林			4.97		0.45	5.41
飛砂防備保安林 (うち防風保安林を兼種) (うち保健保安林を兼種)	216.95 (68.45)	47.81 (0.57) (43.13)		302.08 (18.63)	115.13	681.97 (0.57) (130.21)
潮害防備保安林	2.33					2.33
干害防備保安林			15.00		0.30	15.30
なだれ防止保安林			0.38			0.38
落石防止保安林					0.18	0.18
保健保安林				0.36		0.36
合計	219.28	47.81	20.34	302.44	495.03	1,084.91

出典：新潟県新潟地域振興局（令和6年3月31日現在）

（注）端数処理のため合計と内訳が一致しない。

新潟市では、市街地や田畑を飛砂や風潮害から守り、市民の皆様の憩いの場である保安林を保護・育成するため、県営治山事業を導入するとともに、各種の管理事業を実施し保安林の機能充実に努めている。

ア 保安林事業

(ア) 新潟県の実施した治山事業

施行地	事業名	R3年度		R4年度		R5年度	
太郎代	保育事業	除伐	1.04ha	除伐	0.49ha	除伐	0.46ha
島見町	保育事業	下刈り	2.55ha	除伐	0.37ha	除伐	0.15ha
太夫浜	保育事業	下刈り	2.94ha	下刈り	2.94ha	下刈り	2.28ha
		除伐	1.09ha	除伐	1.33ha	除伐	2.33ha
		クロマツ補植	0.30ha				
青山	海岸防災林造成事業	砂丘造成	135.7m			砂丘造成	67.2m
		広葉樹植栽	0.81ha	砂丘造成	67.2m	砂丘造成	67.2m
		下刈り	2.94ha	広葉樹植栽	0.14ha	広葉樹植栽	0.04ha
		除伐	4.28ha	下刈り	3.75ha	下刈り	3.89ha
		本数調整伐	4.40ha				
	小規模県営治山事業			看板設置等	1式		
上新栄町	海岸防災林造成事業	クロマツ植栽	0.01ha	クロマツ植栽	0.08ha	クロマツ植栽	0.09ha
		下刈り	0.59ha	下刈り	0.71ha	下刈り	0.25ha
		除伐	0.92ha	除伐	1.11ha		
	小規模県営治山事業	松くい虫防除空中散布	1式	松くい虫防除空中散布	1式	松くい虫防除空中散布	1式
五十嵐	海岸防災林造成事業	下刈り	1.37ha				
内野上新町	海岸防災林造成事業	クロマツ植栽	6.25ha				
		除伐	0.48ha				
	保育事業			下刈り	6.25ha	下刈り	2.63ha
						除伐	2.39ha
四ツ郷屋	海岸防災林造成事業	クロマツ植栽	1.36ha				
		下刈り	6.88ha	測量・調査等	1式		
		除伐	1.10ha				
	保育事業	下刈り	2.10ha	下刈り	8.93ha	下刈り	2.35ha
				除伐	4.01ha	除伐	2.83ha
						クロマツ補植	2.83ha
越前浜	海岸防災林造成事業	除伐	0.75ha				
角田浜	小規模県営治山事業						
石瀬	小規模県営治山事業	施設管理	1式	施設管理	1式	施設管理	1式
東島	小規模県営治山事業			転落防止柵設置撤去	1式		

(イ) 新潟市の実施した保安林管理事業

a 危険木の伐採

年度	処分量	地区
R2	39本	北区：太夫浜地区 西蒲区：角田浜・岩室温泉地区
R3	0本	
R4	0本	
R5	1本	北区：太郎代地区

b 不法投棄物の処理

年度	処分量	家電リサイクル品※	廃タイヤ
R2	4.5m ³	2台	8本
R3	2m ³	5台	3本
R4	0m ³	1台	34本
R5	0m ³	0台	71本

※家電リサイクル品の主なもの：テレビ、冷蔵庫、洗濯機等

(ウ) 保健休養機能の活用

保健保安林は、生活環境の保全・形成及び森林レクリエーションの場として、公園などとして活用されている。

a 新潟市海辺の森 面積：約119.7ha

自然と調和した快適生活都市づくりを進めるため、島見町及び太夫浜地区の市有保安林において、その樹林環境と日本海の高浜環境を活用した市民の憩いの場、青少年の自然体験の場を提供している。

平成17年度末には、海辺の森のうち64.79ha（森林、キャンプ場や展望塔などの施設）を都市公園以外の公園（その他公園）として指定した。

「新潟市海辺の森」キャンプ場利用者

(単位：人)

年度	R元	R2	R3	R4	R5
利用者	7,799	3,944	5,182	6,481	7,116
累計	134,055	137,999	143,181	149,662	156,778



第二展望塔



キャンプ場

b 公園

(a) 西海岸公園 面積：52.5ha

野鳥の森、文学の森として、四季を通じて多くの市民に利用されている。

- ・約38万本のクロマツ林
- ・延べ13kmの森林浴を楽しみながら、散策やジョギングができる園路
- ・海岸線を走るサイクリングロード
- ・野鳥の森
- ・白砂青松百選に選ばれた

(b) 青山海浜公園 面積：2.2ha

静かな松林の中に芝生広場も設置。

イ 松くい虫の防除

松くい虫の防除対策として予防事業と駆除事業を実施し、松林機能の健全化に努めている。

- ・予防事業…地上防除、無人ヘリコプター防除、樹幹注入
- ・駆除事業…被害木の伐倒駆除

(ア) 松くい虫被害の発生状況

被害本数 (本)

区	R3年度	R4年度	R5年度
北区	340	825	1,729
中央区	815	610	311
秋葉区	244	77	62
西区	388	769	2,069
西蒲区	591	977	2,225
計	2,378	3,258	6,396

被害材積 (m³)

区	R3年度	R4年度	R5年度
北区	15.2	42.3	98.3
中央区	409.1	267.4	157.4
秋葉区	163.9	43.2	65.7
西区	101.8	211.9	500.9
西蒲区	99.9	215.9	333.5
計	789.9	780.7	1,155.8

(イ) 予防事業実績 (令和5年度)

区	予防方法		
	無人ヘリコプター防除	地上防除	樹幹注入
北区	21.40 ha×1回	—	—
中央区	33.07 ha×1回	—	—
秋葉区	—	—	37本
西区	82.55 ha×1回	—	—
西蒲区	47.41 ha×1回	—	—
合計	184.4 ha	—	37本

(ウ) 駆除事業実績 (令和5年度)

区	駆除方法	駆除本数 (本)	駆除材積 (m ³)
北区	伐倒駆除 (くん蒸)	723	31.6
中央区	伐倒駆除 (くん蒸)	409	180.0
秋葉区	伐倒駆除 (くん蒸)	102	72.2
西区	伐倒駆除 (くん蒸)	946	208.6
西蒲区	伐倒駆除 (くん蒸)	502	154.6
合計		2,682	647.0

※ 前述「(ア) 松くい虫被害の発生状況」R5年度の値と駆除事業実績の値の相違の主な理由は、被害木調査結果に対する駆除作業の一部を、次年度の春に発注するため。

ウ 林道の維持管理

林道利用者の安全を守るため、林道の舗装を行った。

新潟市林道一覧（令和6年3月31日現在）

（単位：m）

地区	路線名	総延長	舗装総延長		舗装進捗率	未舗装延長
				うちR5		
〔秋葉区〕 小須戸	灰ヶ沢線※	1,467	1,467	—	100.0%	0
	灰ヶ沢2号線	157	157	—	100.0%	0
	宮田西ヶ崎線	2,373	2,373	—	100.0%	0
	紙屋沢仏路線	1,860	1,860	—	100.0%	0
	計（4路線）	5,857	5,857	—	100.0%	0
〔秋葉区〕 新津	十ヶ沢線	1,240	370	—	29.8%	870
	大沢支線	700	0	—	0.0%	700
	計（2路線）	1,940	370	—	19.1%	1,570
〔西蒲区〕 岩室	赤山線	1,067	964	—	90.3%	103
	角海線※	764	764	—	100.0%	0
	羽黒線※	490	0	—	0.0%	490
	岩室金池線	4,537	4,537	—	100.0%	0
	石瀬峠線	640	154	—	24.1%	486
	岩室金池支線	658	658	—	100.0%	0
	金池石瀬線※	1,180	1,180	—	100.0%	0
	開ノ木平線	2,253	12	—	0.5%	2,241
	計（8路線）	11,589	8,269	—	71.4%	3,320
〔西蒲区〕 巻	鴻ヶ石線	1,420	1,420	—	100.0%	0
	堂ノ腰線	325	0	—	0.0%	325
	乳母谷線	750	223	—	29.7%	527
	大平線	200	0	—	0.0%	200
	治郎右エ門入線	1,397	0	—	0.0%	1,397
	本間入線	1,230	0	—	0.0%	1,230
	甚右エ門入線	700	0	—	0.0%	700
	片平線	840	50	—	6.0%	790
	此入線	1,500	0	—	0.0%	1,500
	櫛谷線	1,417	0	—	0.0%	1,417
	大沢線	1,610	394	—	24.5%	1,216
	大川線	800	0	—	0.0%	800
	落ヶ谷線※	2,060	2,024	—	98.3%	36
	大入線	520	120	—	23.1%	400
	モノマツリ線	600	0	—	0.0%	600
	計（15路線）	15,369	4,231	—	27.5%	11,138
合計		34,755	18,727	—	53.9%	16,028

※は合併建設計画による

エ 角田山・多宝山保全活用基本計画

角田山・多宝山の魅力ある豊かな森林環境を「地域及び市民の宝」として次世代に引き継ぎ将来にわたり持続的に保全・活用していくための、仕組みづくりの方向を示す計画を策定した。

(ア) 策定年月 平成21年3月

(イ) 対象エリア 角田山・多宝山とそれらを取り囲む山麓部の林業地や農地、海岸、田園など

(ウ) 計画のポイント

角田山・多宝山を「法的制約条件、自然条件、社会条件」の3つの視点で整理することで、大まかな位置付けと、目指すべき方向性を定めた。

また、これを踏まえ、個別の課題について整理し、解決に向けての仕組みを検討した。



左から多宝山、角田山



角田山の杉林（福井地区）

(29) 特用林産物の生産量

(単位：t)

地区	江南区		秋葉区		南区		西蒲区		R4	R5
年次	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	年計	年計
原木しいたけ	3.90	3.00							3.90	3.00
菌床しいたけ			0.10	0	150.80	178.10	0	79.0	150.90	186.0
菌床なめこ					20.08	0	85.00	85.0	105.08	85.0
えのきたけ									0	0
ひらたけ	2.24	0	0.60	0.30	105.00	82.55			107.84	82.85
まいたけ					260.00	279.12			260.00	279.12
ぶなしめじ					345.36	141.26			345.36	141.26
きくらげ					58.46	53.74			58.46	53.74
計	6.14	3.00	0.70	0.30	939.70	734.77	85.00	164.0	1,031.54	902.07

(30) 新潟市ほたるの里交流館

木材を使用した施設を市民の利用に供し、木の良さを市民に広めることにより木材の需要の拡大を図り、林業の振興に寄与することを目的に、強い林業・木材産業づくり交付金事業を活用して設置した。

- ・事業主体：新潟市（旧巻町）
- ・事業年度：平成17年度
- ・建築面積：246.71㎡
- ・延床面積：283.44㎡（1階150.00㎡ 2階133.44㎡）
- ・国産材…100.0%、県産材…97.7%、巻産材…87.1%

実 績	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
見学等 来場者	901人	662人※	1,763人	2,319人
利用者	687人	378人※	989人	820人
実施イ ベント 等	3B体操(12回) 里山おやこ園(6回) 11月24日 現代ア ート講座	3B体操(6回) 市産材PR用DVDの放 映 (102回)	パパママと子どもの 銭湯教室(9回) 板絵作り(1回) 石鹸作り(2回) 市産材PR用DVDの放 映(223回)	熱波師体験会(2回) アウフグースエクサ サイズ(2回) 星空ウォッチング(2 回) 市産材PR用DVDの放 映(247回)

※R3. 7. 19～12. 20 改修工事のため休館

R4. 1. 21～3. 6 新型コロナウイルスまん延防止のため利用停止



(31) 食肉センター

昭和 42 年 8 月に小新地区で開設した旧食肉センターの老朽化及び周辺の宅地化に伴い、本食肉センターを平成 2～4 年に中野小屋地区に整備し、平成 5 年 4 月に開設した。施設管理については、食肉センターでと殺解体事業等を行う公益財団法人新潟ミートプラントに管理業務委託した。

平成 18 年 4 月から指定管理者制度を導入し、指定管理者は公益財団法人新潟ミートプラントである。

ア 施設の概要

(ア) 設置場所	新潟市西区中野小屋 1631 番地
(イ) 敷地面積	42,576.87 m ²
(ウ) 建物面積	10,459.22 m ²
(エ) 施設内容	処理工場棟、管理棟、廃水処理施設、焼却炉・ワラ堆積棟ほか
(オ) と畜能力	大動物 30 頭／日、小動物 900 頭／日
(カ) 廃水処理方法、能力	活性汚泥方式 1,200 m ³ ／日

イ 処理頭数

	牛	とく	馬	豚	めん羊	山羊
R3 年度	782	1	—	187,124	11	—
R4 年度	750	1	—	185,705	11	—
R5 年度	817	—	—	181,655	20	—

ウ 生産地別処理頭数（令和 5 年度）

生産地	牛	とく	馬	豚	めん羊	山羊
新潟市	150	—	—	18,867	3	—
長岡市	4	—	—	2,004	—	—
三条市	10	—	—	14,138	—	—
新発田市	267	—	—	42,904	2	—
村上市	65	—	—	51,721	15	—
燕市	—	—	—	3,961	—	—
五泉市	1	—	—	—	—	—
上越市	5	—	—	—	—	—
阿賀野市	3	—	—	—	—	—
魚沼市	—	—	—	1,568	—	—
南魚沼市	75	—	—	1,024	—	—
胎内市	209	—	—	5,545	—	—
弥彦村	—	—	—	6,308	—	—
田上町	—	—	—	634	—	—
阿賀町	18	—	—	—	—	—
津南町	—	—	—	95	—	—
関川村	—	—	—	8,149	—	—
聖籠町	—	—	—	1	—	—
加茂市	7	—	—	5	—	—
十日町市	—	—	—	—	—	—
佐渡市	—	—	—	—	—	—
北海	—	—	—	—	—	—
岩手県	—	—	—	—	—	—
秋田県	1	—	—	1,694	—	—
山形県	—	—	—	23,037	—	—
群馬県	2	—	—	—	—	—
広島県	0	—	—	—	—	—
総数	817	—	—	181,655	20	—

エ 食肉センター施設設備改善工事及び食肉センター冷凍冷蔵設備改修工事

新潟市食肉センターは肉畜の生産から畜解体処理加工、販売までの一貫した流通体制を強化するため、新潟市が整備した施設である。

0-157 対策、BSE 対策などの法改正に伴う施設設備や備品等の改善工事を随時実施しており、消費者に対し新鮮で良質、安全で衛生的な食肉の提供に貢献している。

令和 5 年度は、施設の老朽化及び国の特定フロンの使用規制等の影響に伴う改修工事等を行った。

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
事業費	15,730 千円	54,741 千円	444,434 千円
起債	15,700 千円	52,000 千円	444,300 千円
県補助	0 千円	2,673 千円	0 円
一般財源	30 千円	68 千円	134 千円
主な工事内容	・高架軌条レール整備	・高架軌条レール整備 ・照明設備改修 ・ポンプ棟給水設備改修 ・大貫又鍵保定装置設置 ・解体処理速度変更システム導入	・冷凍冷蔵設備改修工事 ・污水处理施設自動スクリーン及び調整ポンプ改修工事 ・火災報知設備機器取替工事 ・金属検出器購入

5 各区における独自の取り組み

(1) 北区

ア 令和5年度の実施策の要旨

従来からの事業を更に充実させるとともに、北区産さつまいも「しるきーも」のブランド力強化への取り組みや施設園芸へのICT導入の推進、新規就農希望者への支援など、地域農業の活性化や6次産業化に向けた取り組みを実施した。

また、官民一体となった海岸保安林の保全活動を推進し、森林資源や環境を有効に利活用するための取り組みを実施した。

イ 地域農業の活性化や6次産業化に向けた取組推進事業

(ア)「新潟市北区特産物研究協議会」の活動

a 設立目的

北区の農水産物を活用した商品研究等を通じて地域の産業の発展と経済の活性化に寄与すること。

(イ) 事業内容

a 施設園芸でのICT技術のモデル実施（実証圃の設置・支援）

(a) トマト栽培「養液土耕（コンテナ）栽培」実施支援

(b) トマト栽培「環境モニタリング」実施支援

b 北区産さつまいも「しるきーも」ブランド力強化

(a) 豊栄しるきーも生産組合、南浜蔬菜部会 生産支援

(b) 消費・生産拡大支援

・北区内菓子店と連携した加工品販売PR

・NST八千代コースター出演PR

・新商品開発支援

c 商品販売・PRイベントへの参加

(a) フードメッセ in にいがた 2023（朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター）

(b) しるきーもマルシェ開催支援（主催：しるきーもマルシェ実行委員会、会場：北区文化会館）

ウ 地場産農産物を使った食育支援事業

地場産農産物を活用した食育活動を支援し、食育推進と利用拡大を図った。

(ア) 小学校との連携

・見つけよう、葛塚のためにできること ～特産品～

葛塚東小学校 実施日 令和5年6月1日（木）ほか 計6回

・北区の地場産農産物の良さを知る ほか

木崎小学校 実施日 令和5年6月7日（水）ほか 計7回

・地域に野菜を届けよう ピザパーティー

南浜小学校 実施日 令和5年7月13日（木）

- ・自然のめぐみを味わおう（トマトパーティー） ほか

岡方第一小学校 実施日 令和5年7月19日（水）、20日（木）、11月10日（金）

- ・「北区の宝物をさがそう」～しるきーもを使っておいしく作ろう～

早通南小学校 実施日 令和5年10月23日（月）、24日（火）

（イ）中学校との連携

- ・濁川未来プロジェクト～地域を見つめ、地域から創造し、地域に貢献する～

濁川中学校 実施日 令和5年5月29日（月）ほか 計9回

- ・「夢・未来・南浜プロジェクト」

南浜中学校 実施日 令和5年11月3日（金・祝）

エ 森林資源の利活用

海岸保安林の保全活動と並行し、森林資源の利活用、地域の生きがいつくりにも資する事業として、不要となるニセアカシアや間伐対象の松などを用いた木工品の加工販売をする活動を支援した。

（ア）組織概要

名称：CB 南浜カンパニー（H30 設立）

構成：地元住民を中心とし、南浜まちづくりセンターに事務局を置く

実績：コースター、松ぼっくりクラフト、ミニ盆栽、門松などの販売を実施

（2）東区・中央区・江南区

ア 令和5年度の実施策の要旨

市街地に農地が隣接する地域性を活かし、様々な「農」に親しむ機会を区民に提供することで、地元生産者や農産物への理解を深めるとともに、区の農業の魅力の発信に努めた。

イ 地域の特徴を活かした農商交流・農産物を利用した商品開発や産地イベント・PR 活動への支援

（ア）にいがた 米・みそ愛好会 実行委員会

農薬・肥料を使わずに栽培された江南区産の自然栽培の米や大豆、それらを使用した加工品である「みそ」などのPR・販売促進を実施した。具体的にはリーフレット作成やホームページ更新を実施し、加えてフードメッセ等の各種イベントへ積極的に出展し、販路やネットワークの拡大に努めた。

（イ）江南区ネクストアグリ 実行委員会

江南区の果物の魅力をより多くの人に知ってもらうために、江南区の若手農業者が生産した江南区産の果物を使用した加工品を製作し販売することで、通常の農産物販売とは違ったステージにおいてもPRすることができた。具体的には苺と梨を原材料としたビールを制作し、青果物販売とは別のステージにおいて江南区産の青果物をPRすることが可能となった。

（ウ）かめだ梅まつり（梅の花スポット紹介）

亀田地区の梅（藤五郎梅、越の梅）を地元特産品として区内外に広くPRし消費拡大を図るため、梅

の開花期に合わせ、梅の花のスポット紹介を実施した。

実施期間 令和6年3月6日（水）～3月31日（日）

(3) 秋葉区

ア 令和5年度の実施策の要旨

秋葉区では、特色ある区づくり事業による花き花木産業の振興や大麦のブランド化など、農業振興及び販売・消費拡大に取り組むとともに、里山の保全・利活用に努めた。

イ 水稻の取組

(ア) 環境保全型農業の推進に取り組み、他産地との差別化を図った。

取組面積:1,366.6ha(有機栽培:0.0ha、減減栽培:69.7ha、県認証・JAガイドライン栽培:1,296.9ha)

全水稻作付面積に占める割合:44%(取組面積:1,366.6ha/全水稻作付面積:3,117.2ha)

(イ) 地産地消・消費者との交流の取り組み

a アキハうん米推進事業(特色ある区づくり事業)

秋葉区産の新米を「秋葉区版ご飯がすすむおかず」とともにお弁当にした試食会を開催した。

また、区内の小学校1学年児童の家庭に「ご飯がすすむおかずレシピブック」を配布したほか、新米の時期に、JA直売所など減減栽培米取扱店にレシピブックの配置強化し、PRに努めた。

b 秋葉区産業祭の開催

新津みのりの収穫祭(来場者数:4,353人)、小須戸産地大感謝祭(来場者数:1,965人)

ウ 花き花木の取組

全国有数の花き花木産地である秋葉区をPRするとともに、さらなる販売拡大と産業振興に努めた。

(ア) 花まる鉢花支援事業

区内の鉢花を県内外にPRすることで、地元花き花木の認知度の向上を図った。

a 新日本海フェリーターミナル及びあざれあ号・らべんだあ号の両船内でアザレア展示を実施した。

b 区内の市立幼稚園及び市立幼稚園での入園・卒園式で、会場装飾用アザレアの配布を行った。

c 遠方市場でアザレアの展示・PRを実施した。

(イ) 新潟県花木振興協議会と連携したPR活動

a 新潟県花き出荷組合主催の、県外市場で行われた「市場見本市」でアザレアの展示PRを実施した。

b 食育・花育センターで、クリスマスローズ展の開催を行った。

c 区内保育園卒園式での会場装飾用アザレアの配布を行った。

d 2023年G7財務大臣・中央銀行総裁会議開催に合わせ、新潟駅構内でアザレア新品種「ひろか」によるアザレアタワーを展示した。

エ アキハもち麦推進事業 Vo1.2（特色ある区づくり事業）の取組

生活習慣病の予防・改善につながるとして、機能性に注目が集まっている大麦への関わりを通して、産・福・学・官が連携し、農業振興及び販売・消費拡大を図るための取組を行った。

（ア）主な取組支援

- a フードメッセ in にいがた 2023 に Akiha もち麦プロジェクトとして出展（取組 PR・商談）
- b Akiha 健康レストラン等と連携し、飲食店等でのもち麦の販売・メニュー提供（区内 23 店舗）
- c 小学校もち麦総合学習、学校給食統一メニュー、豊島区イケ・サンパーク出店 PR、各種 PR 展示

オ 里山の保全活用の取組

「にいつ丘陵里山保全活用基本計画」（平成 17 年度策定）に基づき、里山を市民の健康増進やリフレッシュの場、学びの場として整備を図るとともに、その利活用に努めた。

（ア）秋葉区 里山未来創造事業

緑豊かな里山の魅力ある資源や機能を活かし、施設等のネットワーク構築や人づくりなど、平成 27～28 年度にまとめた里山利活用の具体的行動計画に基づき、里山の魅力発信やにぎわい創出、次世代につながる環境教育を行った。

（イ）地域環境保全林管理事業

市有林の下刈・間伐等

（ウ）学ぼう・育てよう「環境林・保健休養林」事業

里山ミニトレッキング体験、秋葉つるきり隊、「朝日の森」森づくり体験

（エ）里山ビジターセンター

物産販売や観光宣伝など里山の情報発信を担っているほか、にいつ丘陵の来訪者や利用団体の交流、憩いの場としての機能を併せ持つ拠点施設。

「里山ビジターセンター」利用者

年 度	R1	R2	R3	R4	R5
利用者	36,847 人	27,351 人	28,515 人	30,203 人	27,021 人

（4）南区

ア 令和 5 年度の実施施策の要旨

南区区ビジョンまちづくり計画に掲げる「地域の宝に気づき、守り、魅力あふれるまち」の実現に向け各種取り組みを行った。

イ 南区果樹担い手協議会の活動

南区の果樹産地の現状は、高齢化や担い手不足などの影響で栽培面積が減少し続けている。

県内最大の果樹産地の維持・発展のため、農協や果樹農家、行政等関係機関が一体となって、果樹担い手確保に向け、以下の取り組みを行った。

【主な取組】

- ・南区果樹担い手協議会ワーキンググループ会議を開催し関係者から情報を持ち寄り、貸出可能な樹園地情報の収集と継承の検討を行った（3回）。
- ・新潟農業バイオ専門学校（27名）にて、南区果樹担い手協議会の取組について説明会を行った。
- ・新潟県農林水産業就農・就業チャレンジフェア（6月・8月・12月・2月）に参加し、新潟県農業大学校生（7名）への取り組み説明と一般参加者の就農相談（5名）を行った。
- ・JR 新宿ミライナタワーでの就農相談（5名）を行った（8月）。
- ・南区役所にて就農希望者（5名）の面談を行った。
- ・上記で面談を行った方（1名）を対象に、果樹農家（里親）での体験研修を行った。
- ・区外から南区内へ転居し、果樹農家（里親）に就業した将来的に南区内で独立就農意向のある方に、家賃助成を行った（1名）。
- ・南区果樹担い手協議会「里親会議」を開催し、交流会および次年度計画の意見交換を行った（11月）。
- ・南区果樹担い手協議会「里親交流会」を開催し、西蒲区の先行事例紹介や北陸農政局新潟支局長よりの講演、果樹新規就業者と雇用者（里親）を交えた意見交換を行った（1月・32名）。
- ・首都圏での移住定住イベントにパンフレットを送付しPRを行った（11月・1月・2月）

ウ 果樹産地 PR

南区の果樹の魅力を発信し、果樹への就農に興味をもつ方を増やすため各種PRを行った。

- ・南区での果樹就農と果樹産地のPRのためウェブ広告を実施
（期間：11月1日～2月4日、表示回数411万回：クリック数7,000回）。
- ・フードメッセにて、JA 新潟かがやきと共同でエダマメペーストやル レクチエペーストなど加工品のPRを行った。

(5) 西区

ア 令和5年度の実施策の要旨

都市部と農村部が共存している西区の地域特性を活かし、都市と農村の交流事業を通じて農業と農産物への理解を深め、地域農業の振興に重点的に取り組んだ。

また、市内でも高位にある耕作放棄地の未然防止に取り組んだ。

イ 親子収穫体験

農家との交流を図るため、農家が栽培・管理した農産物を、消費者が自ら収穫し購入する親子収穫体験を実施した。

品目	実施日	参加組数
すいか	令和5年6月24日（土）	56組
くろさき茶豆	令和5年8月26日（土）	37組
メロン	令和5年9月23日（土）	72組
サツマイモ	令和5年10月14日（土）	73組
ル レクチュエ	令和5年10月21日（土）	49組
大根	令和5年11月18日（土）	20組
チューリップ	令和6年1月21日（日）	10組

ウ 教育連携事業

地場農産物への興味を高め地産地消を推進するため、西区内の小学校を対象に、地場農産物の収穫体験などの食育講座を実施した。

- ・収穫体験及び生産者講話

実施期間 令和5年10月5日（木）～10月31日（火） 参加児童数 1,210人（15校）

エ 笑顔がいっぱい西区 de マルシェ

都市と農村の交流及び西区産農産物のPRを図るため、農産物の収穫時期に合わせてイベントを実施した。

- ・西区特産「新潟すいかまつり」

開催日 令和5年7月1日（土）

オ くろさき茶豆農商工連携協議会

くろさき茶豆の消費拡大と生産地域の活性化を目的に、SNS やマスメディアを用いた情報発信や、首都圏を中心とした販売促進活動など様々な事業を行った。

カ いもジェンヌ農商工連携協議会

西区の砂丘地で生産されるさつまいも「いもジェンヌ」の消費拡大と生産地域の活性化を目的に、補助金による生産者支援やウェブサイト・Instagramアカウントの運営、いもジェンヌまつり・西区いもジェンヌ給食・いもジェンヌおやつの実施、プレゼントキャンペーンの実施など様々な事業を行った。

キ 特産品情報の発信

西区の地場農産物の知名度向上と消費・販路拡大を目的に、新型コロナウイルス感染症に配慮し主にSNS やマスメディア等を活用したPR事業を行った。

（ア）くろさき茶豆PRキャンペーン等

- ・テレビ

実施日 令和5年7月10日（月）約1か月間

- ・SNS（ツイッター）プレゼントキャンペーン

実施日 令和5年7月24日（月）～7月31日（月）

実施日 令和5年8月7日（月）～8月21日（月）

実施日 令和5年8月22日（火）～8月27日（日）

実施日 令和5年12月4日（月）～12月13日（水）

- ・くろさき茶豆で乾杯キャンペーン（新潟駅前の飲食店でくろさき茶豆とビールのセット販売）

実施日 令和5年8月10日（木）～8月24日（木）

- ・西区だより

実施日 令和5年7月16日（日）

（イ）いもジェンヌ PR キャンペーン等

- ・SNS（インスタグラム）プレゼントキャンペーン

実施日 令和6年3月6日（水）～3月12日（火）

実施日 令和6年3月18日（月）～3月24日（日）

- ・西区だより

実施日 令和5年12月3日（日）

ク 耕作放棄地対策

耕作放棄地未然防止事業

耕作放棄地が発生しないよう、地元農家組合等が実施する、耕起や除草などの耕作放棄地未然防止対策への取組に対し、支援を行った。

助成実績（R5） 助成面積 6,198 m²

（6）西蒲区

ア 令和5年度の実施策の要旨

農業が基幹産業である西蒲区において、「にしかん なないろ野菜」の更なるブランド化や新規販路の開拓に努めた。また GAP（農業生産工程管理）認証取得者の取組を普及・啓発するなどして、西蒲区内農業者、農産物のイメージアップを図った。

近年イノシシの目撃や痕跡件数が増えるなかで、野生獣の農業被害に対応するため、電気柵モデル設置や被害対策啓発チラシを配布するなど農業従事者の人的被害防止及び農作物被害防止の取組を行った。

イ 「にしかん なないろ野菜」ブランド強化・販路拡大事業

令和元年度に「にしかん なないろ野菜」として試験栽培・試験販売を開始し、商標登録申請を行った。令和5年度は豊洲市場への試験的出荷や産地視察の受け入れ、給食への提供、加工食品の試験生産などを行い、販路拡大・売上増加の可能性を検討した。また、なないろ野菜の日フェアの開催と

イベント・取材での著名人の喫食を通じ、メディア露出と認知度の拡大を図った。現在、約 30 名の生産者が 30 品種ほどの野菜を生産している。

令和 5 年度に開催した主なイベント

開催日	イベント	概要
7 月 16 日・17 日	なないろ野菜の日フェア	農産物直売所にて地元割烹のなないろ野菜を使った惣菜販売。
9 月 2 日	わらアートまつり会場	上堰潟公園にてなないろ野菜を販売。
10 月 7 日・8 日	にいがた 2km 食花マルシェ	万代シテイ十字路に出店し 2 日間なないろ野菜を販売。連携事業者によるカレーの販売。

ウ にしかん未来につながる持続可能な農業推進事業

近年、農作物の安心・安全はもちろん、消費者の高品質農作物への志向が高まり、産地間競争は激化している。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響で農産物の生産過程においては、徹底した衛生管理が強く求められ、周辺環境への配慮や、労働安全、人権保護、経営管理といった取組も、以前にも増して経営者に求められているところである。

このため、西蒲区農業振興協議会内に「にしかん未来につながる持続可能な農業推進事業部会」を立ち上げ、区内の GAP 認証取得者も構成員に含め、未来につながる持続可能な農業の生産体制づくりを強化する事業を実施した。

(ア) 研修会実施

GAP 認証取得農場視察研修

令和 5 年 11 月 22 日

有限会社 穂海農耕（上越市）

参加者 15 名

(イ) GAP の取組普及活動

PR 活動として GAP 講演会

令和 5 年 8 月 24 日

講師 一般財団法人 日本 GAP 協会 理事長 木内 博一 氏

参加者 130 名

エ 産地を守る農業生産被害防止対策事業

イノシシの出現により、樹園地、田畑が荒らされ、農産物被害も出てきている。地元猟友会会員は高齢化しており、今後出現頭数が増加するなか、農産物被害や農業従事者の危険性が高まる恐れがある。

産地の将来のため、農作物の被害防止や農業従事者の安全性の確保が急務である。令和 3 年度に実施した、集落環境診断における現地の被害状況把握、原因分析などで得ることのできた経験を参考に、具体的な対策を決定して実施することで、農作物の被害防止や農業従事者の安全確保に取り組んだ。

(ア) 電気柵モデル設置

電気柵の貸出を行い被害軽減に取り組んだ。(貸出件数 2 件)

(イ) 罾猟免許の取得費用補助

地元猟友会会員の高齢化に伴う人員不足を補うため、免許取得経費の支援を行った。(1 名)

(ウ) 侵入防止柵の資材購入費用補助および電気柵貸出等の周知

令和 5 年 8 月 31 日 周知チラシの配布(金池～松山 33 地区)

オ 地場産学校給食推進モデル事業

安全な地場野菜を子供たちに提供したいという地元生産者の願いを実現するとともに、児童が食・農を通じた交流により地元の農産物への興味関心を高めることにより、地産地消の推進に取り組んだ。

(ア) そら豆のさや取り体験と交流給食会

令和 5 年 6 月 5 日と 6 日 潟東小学校の 1 年生が実施。生産者が来校し、そら豆の栽培方法やおいしい食べ方、さやの剥き方を教え、翌日の給食ではそら豆を使用した料理で、生産者との交流給食会を実施した。

(イ) 越王おけさ柿交流給食会

令和 5 年 11 月 8 日潟東小学校の 6 年生が実施。生産者が来校し、越王おけさ柿の栽培の苦労や楽しさをお話ししていただき、生産者との交流給食会を実施した。

カ 農村地域生活アドバイザー実施事業

農村地域生活アドバイザーを講師に迎え、市民を対象に味噌作り教室を岩室地区・巻地区で開催し、手作り味噌の普及と伝統の継承を目指した。

(ア) 岩室味噌作り教室 岩室農村環境改善センター

令和 5 年 5 月 26 日・27 日 参加者 71 名

(イ) 巻味噌作り教室 JA 新潟かがやき 巻アグリセンター「農村婦人の家」

令和 6 年 2 月 2 日 参加者 12 名